

2. 倉庫

年月日	摘要	所在	番號	單位 ノ稱	單價		
					円	銭	厘
明治何年何月何日	土藏二階建何年何月何日建築	本監又ノ本署敷地内		坪	40	00	0
"	煉化石造平家建	"		"	30	00	0
"	石造平家建	"		"	30	00	0

部 2.

受			拂			現在高			額未
數量	價格		數量	價格		數量	價格		
	円	銭		円	銭		円	銭	
10	400	00							
10	200	00							
5	150	00				25	25	00	



1. 廳 宇

年月日	摘要	所在	番號	單位 ノ稱	單價	
					円	銭
明治何年 何何	木造二階建 壹棟	何年月日建 築		坪	20	00 0
" "	"平家建壹 棟	建築		"	10	00 0
何何	"平家建壹 棟	何年何月何 日經何取毀		"	10	00 0

部 1.

受		拂		現在高		頃末
數量	價格	數量	價格	數量	價格	
	円 銭 厘		円 銭 厘		円 銭 厘	
200	4,000 00 0					
50	500 00 0			250	4,500 00 0	明治何年何月何日取毀
		50	500 00 0	200	4,000 00 0	



第四十四號書式 (縱橫不動線八朱)

(第百二十三條)

官 有 財 產 簿

家 屋 部

何 廳



1. 場 示 揭

年月日		摘要	所在	單位稱	單價	
明治	何年				何	何
		本造機示場付屬品共	本監又ハ本 署構内	箇	所	20 00 0

1. 部

受		拂		現在高		顛末
数量	價格	数量	價格	数量	價格	
	円	銭	厘		円	銭
1	20	00	0			
				1	20	00 0



第四十五號書式 (縱橫不動線八朱)

(第百二十三條)

官 有 財 產 簿

營 造 物 部

何 廳



1.

年月日		摘要	所在	單位ノ稱	單價		
明治	年何				円	銭	厘
何	何	日本形船 經何間橫何間	何 岸	艘	500	00	0
	"	西洋形汽船 "	何 川	"	5,600	00	0

1.

受		拂		現在高		顛末
数量	價格	数量	價格	数量	價格	
1	500 00 0					
1	5,600 00 0			2	5,500 00 0	



第四十六號書式 (縱横不動線ハ米)

(第百二十三條)

百二十四

備考

避難用作業用等ノ小舟ハ之ヲ除ク

官有財産簿

船舶ノ部

何廳

第四十七號書式

(第百二十四條)

(用紙美濃紙)

官有財産目錄

廳

名

百二十五



官有地ニ民設  
 家屋ノ由ニ合  
 入地ノ理ニ合  
 其内ノ門等  
 記入スルモ  
 借地ニハス  
 目録ニハス  
 スルニ及ハス

何 々	官 舎 敷 地	同 附 屬 何 地	何 監 又 ハ 何 署 敷 地	所 用 廳 名	地 所 ノ 部
	同	同	何府縣何郡市何町村何々 字何番地	所 在 地 名	
				地 積	
				價 格	



土		板		煉瓦		鐵		石		木	
塀		塀		門		門		造門		造門	
價格	間數	價格	間數	價格	箇所	價格	箇所	價格	箇所	價格	箇所

種類	何所	計	何
地所附屬之部	何監又		
	何署		
	屬地		
	官舍		
	何々		
小計			



石造又ハ土管  
等腐朽セサル  
記ス  
方面一尺以上  
ノモノトス

構内ニシテ建  
ルモノヲ設ク  
ルモノヲ設ク

庭石		下水		上水井戸		堀井戸		敷石		木橋	
價格	箇所	價格	箇所	價格	箇所	價格	箇所	價格	箇所	價格	箇所

築渠等ノ爲メ  
築キタルモノ  
保キタルモノ  
ナルモノハ  
聚モス  
ナルモノハ  
聚モス

石橋		石垣		木柵		鐵柵		煉瓦塀		石造塀	
價格	箇所	價格	箇所	價格	箇所	價格	箇所	價格	箇所	價格	箇所



鐵  
 造  
 等  
 ノ  
 爲  
 築  
 キ  
 タ  
 ル  
 モ  
 ノ  
 保  
 存  
 上  
 築  
 キ  
 タ  
 ル  
 モ  
 ノ  
 ナ  
 ル  
 モ  
 ノ  
 要  
 セ  
 ス  
 ナ  
 ル  
 モ  
 ノ  
 調  
 査

構  
 内  
 ニ  
 シ  
 テ  
 建  
 築  
 外  
 ニ  
 敷  
 設  
 ア  
 ル  
 モ  
 ノ  
 ナ  
 ル  
 モ  
 ノ  
 調  
 査

石  
 造  
 又  
 ハ  
 土  
 管  
 等  
 腐  
 朽  
 セ  
 サ  
 ル  
 モ  
 ノ  
 下  
 水  
 ナ  
 ル  
 モ  
 ノ  
 調  
 査  
 方  
 面  
 一  
 尺  
 以  
 上  
 ノ  
 モ  
 ノ  
 ト  
 ス

庭石		下水		上水井戸		堀井戸		敷石		木橋	
價格	箇所	價格	箇所	價格	箇所	價格	箇所	價格	坪數	價格	箇所

石橋		石垣		木柵		鐵柵		煉瓦塀		石造塀	
價格	箇所	價格	坪數	價格	間數	價格	間數	價格	間數	價格	間數



民有地ニ官設  
一家アルトキ  
其理由ヲ檢ケ  
ベシ由テ檢ケ  
子増シハ月障  
子等ノ目録  
モ及ハ  
ノ  
ハ

煉	造						木 三階建	構造種類	所 在
	平家建		二階建		三階建				
	坪數	價格	坪數	價格	坪數	價格			
三階建								何監又 何署	
								何所附 感地	
								官舍	
								何々	
								計	

百三十三

以上通り  
目通り  
一尺

計	何々	露燈		樹木	
		價格	箇數	價格	本數

百三十二











ス  
附  
屬  
品  
ヲ  
合  
算

計	端		汽		種 類	所 在 部 門
	艇		船			
	價 格	艘 數	價 格	艘 數	何 處 又 ハ 何 署 何 支 署	
						記 事

百三十九

同  
上  
蒸  
氣  
力  
以  
テ  
取  
内  
モ  
ニ  
取  
ル  
ノ  
如  
キ  
ハ  
ス  
ノ  
入  
入  
入  
入

計	瓦 斯 メ ー ト ル		水 道 管		煖 房 器		電 鈴 器	
	價 格	箇 所	價 格	間 數	價 格	箇 所	價 格	箇 所

百三十八



第四十八號書式

(第百二十四條)

備考

- 一 圖面ハ其土地ノ廣狹形狀及方位ヲ測度シ真正ノ境界ヲ明ニシ精覈ニ調査スヘシ
- 二 製圖用紙ハ黎沙引製圖紙又ハ美濃紙ヲ用フヘシ
- 三 圖上ニ記載スル文字ハ總テ楷書ヲ用ヒ北ヨリ南ヘ向ク記載スヘシ但地面周圍ノ間尺ノ如キ實際一定ノ方向ニ記シ難キモノハ此限ニ在ラス
- 四 地圖ハ上部ヲ北トスヘシ方位ヲ斜ニスヘカラス但配置圖上ニハ方位針ヲ畫キ方向ヲ記スヘシ
- 五 圖面ヲ別ツテ左ノ三種トス
  - 一 地圖 尺度六百分ノ一即チ六尺ヲ一分トス
  - 二 配置圖 尺度三百分ノ一即チ六尺ヲ二分トス
  - 三 平面圖 尺度二百分ノ一即チ六尺ヲ三分トス
- 六 地圖ハ實地測量ノ上正確ニ調査シ森林原野河川堤防丘陵耕作地等ノ類ニシテ著シキモノハ特ニ其位置ヲ表示スヘシ

七 地圖ニハ周邊ノ地形即チ溝渠堤塘道路等ノ如キ著シキモノハ其概略ヲ摸寫シ名稱地名ヲ揭

クヘシ

八 配置圖ハ左ニ附記スル所ノ記號ニ據リ調製シ其位置形狀ヲ明示スヘシ

- 一 木造建物 墨ニテ其周邊ヲ畫キ樺色ヲ以テ色取ルヘシ
- 二 煉化石造建物 墨ニテ其周邊ヲ畫キ薄紅色ヲ以テ色取ルヘシ
- 三 土藏建造物 墨ニテ其周邊ヲ畫キ薄墨色ヲ以テ色取ルヘシ
- 四 石造建物 墨ニテ其周邊ヲ畫キ薄藍色ヲ以テ色取ルヘシ
- 五 建物層階ノ區別 二階ハ墨ニテ數條ノ平行斜線ニ階ハ墨ニテ數條ノ縱橫平行斜線
- 六 門 木製又ハ煉化石造等ノ區別ヲ附記スヘシ
- 七 煉化石塀 墨ニテ二重線ヲ畫キ薄紅色ヲ以テ色取ルヘシ
- 八 石塀 墨ニテ二重線ヲ畫キ薄藍色ヲ以テ色取ルヘシ
- 九 土塀 墨ニテ二重線ヲ畫キ薄墨色ヲ以テ色取ルヘシ
- 十 板塀 墨ニテ一線ヲ畫キ側ニ樺色ノ斷絶線ヲ加フヘシ
- 十一 鐵柵 薄藍色ノ斷絶線



- 十二 木柵 墨ノ斷絶線
- 十三 竹垣 綠色ノ斷絶線
- 十四 生垣 綠色ノ線
- 十五 溝又ハ下水(常ニ水ア) 墨ニテ兩邊ヲ畫キ綠色ヲ以テ色取ルヘシ
- 十六 木製埋下水 棹色ノ虛線ニテ其外經ヲ示シ中間ニ薄藍色ノ虛線ヲ加フヘシ
- 十七 煉瓦石埋下水 薄紅色ノ虛線ニテ其外經ヲ示シ中間ニ薄紫色ノ虛線ヲ加フヘシ
- 十八 石製下水 薄藍色ノ虛線ニテ其外經ヲ示シ中間ニ薄紫色ノ虛線ヲ加フヘシ
- 十九 土管埋下水 茶色ノ虛線ニテ其外經ヲ示シ中間ニ薄藍色ノ虛線ヲ加フヘシ
- 二十 木製水道樋 茶色ノ虛線ニテ其外經ヲ示シ中間ニ藍色ノ虛線ヲ加フヘシ
- 二十一 鐵製水道管(鉛管トモ) 薄藍色ノ虛線ニテ其外經ヲ示シ中間ニ藍色ノ虛線ヲ加フヘシ
- 二十二 井(樋側) 棹色ニテ其周邊ヲ畫キ藍色ヲ以テ色取ルヘシ
- 二十三 井(石又ハ深噴發) 薄墨ニテ其周邊ヲ畫キ藍色ヲ以テ其色取ルヘシ
- 二十四 井(水道又ハ吹井) 以上二種ノ中央ニ薄墨色ノ小圈ヲ畫クヘシ
- 二十五 樹木 日通り經一尺以上ノモノヲ其位地ニ畫キ綠色ヲ加ヘテ陸ヲ附スヘシ

- 二十六 池 墨ニテ其周邊ヲ畫キ薄藍色ヲ以テ色取ルヘシ
- 二十七 庭石其他石垣敷石類 墨ニテ其外邊ヲ畫キ薄墨色ヲ以テ色取ルヘシ
- 二十八 電信電話電燈線 黃色ヲ以テ支柱ト電線トヲ畫クヘシ但支柱ハ其位地ニ從フ
- 二十九 電信機 經一分以下ノ⊠形ヲ記ス
- 三十 電話機 經一分以下ノ⊗形ヲ記ス
- 三十一 電燈 經一分以下ノ⊙字形ヲ記シ黃色ヲ以テ色取ルヘシ
- 三十二 斯管瓦 朱色ノ虛線ニテ其外經ヲ示シ中間ニ朱色虛線ヲ加フヘシ
- 三十三 瓦斯燈 經一分以下ノ⊙字形ヲ記シ朱色ヲ以テ色取ルヘシ
- 三十四 露燈 經一分以下ノ⊙字形ヲ記シ薄紅色ヲ以テ色取ルヘシ
- 三十五 煉化石製燈突 大小形状ニ從ヒ墨ニテ其周邊ヲ畫キ其周邊ニ薄紅色ヲ加ヘ内部ヲ藍色ニ色取ルヘシ
- 三十六 木橋 墨ニテ其外邊ヲ畫キ棹色ヲ以テ色取ルヘシ
- 三十七 石橋 墨ニテ其外邊ヲ畫キ薄藍色ヲ以テ色取ルヘシ
- 三十八 鐵橋 墨ニテ其外邊ヲ畫キ濃藍色ヲ以テ色取ルヘシ
- 三十九 土橋 墨ニテ其外邊ヲ畫キ薄墨色ヲ以テ色取ルヘシ



四 十 水流ノ方向  
 墨ニテ箭形ヲ畫キ其方向ヲ示スヘシ  
 右ニ記號ナキモノト雖緊要ナルモノアルトキハ適宜記號ヲ設ケ圖面ニ表示シ其側ニ名稱ヲ  
 附記スヘシ

九 配置圖ニハ左ノ事項ヲ附記スヘシ

- 一 府縣國郡市町村字番地
- 二 使用名(何々敷地ト)  
(記スヘシ)
- 三 舊地券面又ハ帳簿上ノ坪數反別(數筆ヲ合併シテ一ノ敷地トシタルモ)  
(一筆毎ニ其坪數反別ヲ示スヘシ) 實測坪數
- 四 周圍ノ間尺
- 十 圖上ノ建物ニハ便宜番號ヲ附シ平面圖ノ番號ト對照參看ノ便ニ供スヘシ
- 十一 用地ノ内官廳若クハ會社人民ヘ使用ヲ許シアルモノハ未ノ斷絶線ニテ其區域ヲ明示シ坪  
數及使用年月期限并使用者ノ姓名(又ハ官廳會社)ヲ其區域内ニ朱記スヘシ
- 十二 平面圖ハ各棟及各間席共何レモ其使用ノ名稱ト間尺并坪數ヲ記載スヘシ但官舎ニ於ケル  
亦同シ


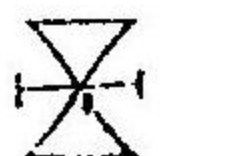
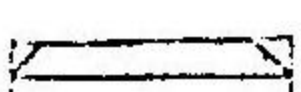
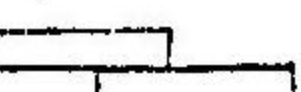






平面圖ハ之ヲ數葉ニ分テ調製シ配置圖建物ノ番號ヲ記入スヘシ



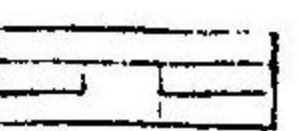

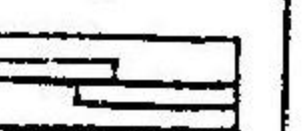
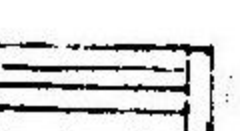



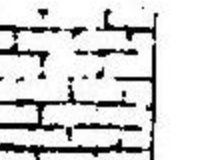


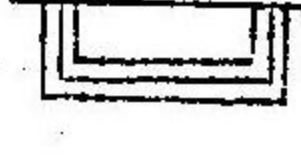
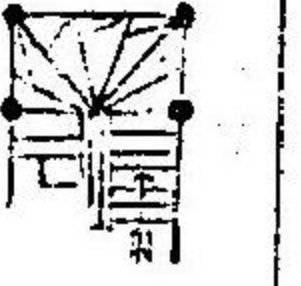
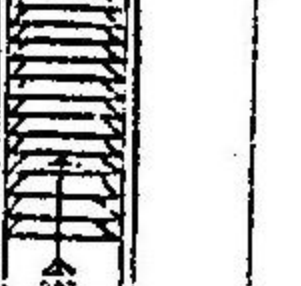
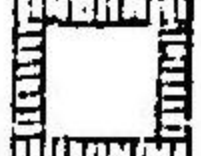


十三 層階ノ部分ハ掛紙(貼付ノ箇所ヘハ上)ニ畫クヘシ

十四 構造其他ノ區別ハ左ノ記號ニ據リ詳細其形狀ヲ寫スヘシ但左ニ記載ナキモノハ適宜記號  
ヲ設ケ圖上ニ其凡例ヲ示スヘシ

名 稱	記 號	名 稱	記 號	名 稱	記 號
木造建物		鐵ポート窓		板 流 シ	
煉瓦石造 土藏造建物		木格子窓		兩 便 所	
格子建板羽 目又ハ塗壁		連 子 窓		角 椽 側	
格 子 建		無双連子窓		床 上 爐	



ラセ ン敷	ソツ ク敷	突上 ク窓	入口 引違
			
疊 敷	ソウ タン敷	押人 上ク板	西洋 形便所
			
		勾配 石敷	高欄 付階段
			

片開 キ	切室 手内 摺仕	引込 窓	兩開 キ窓	引違 窓	上ク下 ク窓
					
敲 キ	煉化 石敷	四盤 石敷	石 敷	筋違 板張	板 張
					
階 段	回リ 階子段	階子 段	煉瓦 石爐	石 爐	スト ープ
					



第四十九號書式

明治何年度

官有財産増減異動報告書

(第百二十五條)

何廳



第五十號書式

(用紙半紙紙)

(第百二十五條)

官有財產増減異動説明書  
受之部

- 一 何應附屬地五百坪ノ交換アルハ何應建物増築スヘキ處敷地無之ニ付何年何月何日經伺ノ上何國何郡何村何番地字何々何某所有ノ宅地ト從來ノ附屬地五百坪ト交換ス但評價格壹坪ニ付金壹圓
- 一 官舎敷地貳百坪ノ購入アルハ官舎敷地狹隘ニ付何年何月何日經伺ノ上何國何郡何村何番地字何々何某所有ノ畑地坪金壹圓ニテ購入ノ分
- 一 官舎敷地三百坪ノ保管轉換アルハ何年何月何日經伺ノ上何國何郡何村何番地字何々何省所管ノ地所讓リ受ク但目錄價格アルモノハ其價格又ハ評價格壹坪ニ付金何圓
- 一 何應樹木參本購入アルハ庭園ニ植付ノ必要アリ何年何月何日經伺ノ上壹本ニ付金壹圓ニテ購入ル
- 一 官舎板塀五間建増附アルハ敷地内ヘ設置ノ必要アリ何年何月何日經伺ノ上壹間金六圓ノ請負ヲ以テ出來ノ分
- 一 官舎敷石拾四坪新築アルハ表門内ニ關連ニ敷石取設クノ必要アリ何年何月何日經伺ノ上壹

品目	受之部										拂之部						現在之部		備考	
	越 高		本 年 度 受 入				小 計				拂 之 部						數 量	價 格		
	數 量	價 格	購入 數量	交換 數量	新築 數量	建増 數量	何々	價 格	數 量	價 格	交換 數量	却 數量	解 數量	亡 數量	出 數量	保 數量				何々
何應又ハ何署 地所ノ部																				
何市町村字番地 何應敷地	2,000	4,000.00								2,000	4,000.00								2,000	4,000.00
何市町村字番地 何應附屬地	1,000	1,000.00		500				500.00		1,500	1,500.00	500					500.00		1,000	1,000.00
何市町村字番地 官舎敷地			200					200.00		200	200.00								200	200.00
何市町村字番地 官舎敷地				300				300.00		300	300.00								300	300.00
地所附屬ノ部 何應木造門木塀石	2	600.00								2	600.00								2	600.00
何應樹	1	100.00	3					300.00		4	400.00								4	400.00
官舎敷	10	200.00						300.00		15	600.00			1				300.00	14	570.00
家屋ノ部 何應二階建	50	2,500.00								50	2,500.00								14	140.00
官舎平家建	30	600.00			10			200.00		40	800.00	10					500.00		40	2,000.00
家屋附屬ノ部 何應疊子	6	600.00								6	600.00								40	800.00
官舎紙張障子	10	500.00			5			500.00		15	1000.00								6	900.00
營造物ノ部 何應指示場					1			300.00		1	300.00								15	1000.00
地所ノ部 (上ニ同シ)																			1	300.00
追未送高		8,200.00						1,282.00			9,482.00						1,030.00			8,452.00

賣却ニ係ルモノハ  
各該ニ於テ定メタ  
ル採定價格及實際  
ノ賣却代價ヲ本欄  
ヘ詳記スヘシ



- 坪金壹圓ノ請負ヲ以テ出來ノ分
- 官舎拾坪新築アルハ應接所建築ノ必要アリ何年何月何日經伺ノ上壹坪金貳拾圓ノ請負ヲ以テ出來ノ分
- 官舎紙張障子五枚ノ新築アルハ建増ニ伴ヒ新調セルニ依ル壹枚金壹圓
- 揭示場壹箇所新築アルハ從來揭示場ノ設クナキ處今回其必要アルニ至リ何年何月何日經伺ノ上壹ヶ所金參拾圓ノ請負ヲ以テ出來ノ分

拂之部

- 何應附屬地五百坪ノ交換アルハ從來何國何郡何村字何々附屬地ニシテ使用ノ必要ナキニ依リ何年何月何日經伺ノ上民有地何某所有ノ地所ト交換ス但評價格坪金壹圓又ハ目錄價格金何程
- 官舎板塀壹間亡失アルハ何月何日ノ出水ニ依リ流失セル付何年何月何日經伺ノ上拂出ス
- 何處ニ階建拾坪ノ賣却アルハ何月何日暴風ノ爲メ大破ニ及ヒ修繕ヲ加アルモ新築ノ價ト殆メト相等シキヲ以テ何年何月何日經伺ノ上入札最高額坪何圓ノ割ニテ何ノ誰ニ拂下ノ分但目錄價格壹坪金五拾圓豫定價格金何圓

何 廳

第五十一號表

(第百二十八條)

需用品分類表		別類
品	備	應用品品目
圖書	法令全書、法規大全、獄則彙纂等	獄用品品目
備	椅子、桌子、文庫、時計、戸棚、書棚、書籍箱、文函、版木、活字鋏、硯箱、硯石、水入、肉池、コンパス、烏口、定木、尺度、小刀、醫療器械、圖引器械其他之ニ類スル物品	在監人遵守事項、刑法、民法、刑事訴訟法、其他在監人ニ貸與ノ書籍
品	サヘル、呼子笛、肩章、帽章、外套締革捕繩、外套備人用其他看守押丁備人ニ貸與スル一切ノ物品(手帖ヲ除)	長短衣、綿入長短衣、單長短衣、通常襦袢、就役襦袢、股引、手袋、其他在監人ニ貸與スル被服ノ類
		鋸、鑿、打込錐、鉋、庖丁、硝子切、煉化石切、其他就役用器具
		長卓、食卓、水函、下駄函、穀物函、野菜函、辨當入箱其他之ニ類スル物品



考 備	物 動	品 耗 消
ス	牛馬ノ類	<p>美濃紙、半紙、西洋紙、狀袋、筆、墨、印肉、諸用紙、諸帳簿、電話電鈴附屬品、布巾、雜巾、針、釘、灰吹竹、火入、痰吐、簾、蓆、蓆、繩、紐、苧、采配、刷毛、パレン、柄杓、茶碗、土瓶及釣、灰篩、灰、紙屑籠、砥石、塵取、木札、錠、鍵、ランプ、ホヤ、ペン先、インキ、鉛筆、油類、マツチ、蠟燭、生炭、寒天、火藥、雷管、綿鉄、麥、牧草其他之ニ類スル物品</p> <p>日覆、夏服、冬服、外套、卸、朝靴、下襟、靴下、襦袢、袴下、手袋、法被其他看守押丁傭人ニ給與スル一切ノ物品及手帖</p>
	牛馬ノ類	<p>米、麥、黍、粟、大豆、麥粉、味噌、醬油、鹽、大根漬、梅漬其他食料品ノ類</p> <p>薪炭油、付木、燈心、筆、墨、雜紙、草履、蓆、雜巾、其他之ニ類スル物品</p> <p>石灰酸、クリスリン、アルコール、苦味丁幾、重炭酸曹達、葡萄酒其他一切ノ藥餌</p> <p>棺桶、墓標、繩其他葬用ノ物品</p>
	牛馬ノ類	<p>本表物品ノ分類中備品消耗品ノ區分ハ發出支出科目トハ全ク別異ノモノトス</p>

第五十二號書式

(第四百十條)

備考

- 一 本簿ハ廳用品、獄用品、作業品各別冊トシ廳用品獄用品ニ付テハ更ニ之ヲ圖書、備品、動物、消耗品ニ作業品ニ付テハ素品、製品ニ區分ス但消耗品、作業品ノ帳簿ニハ番號ノ區ヲ除ク
- 二 欄外ニ何々ノ部トアルハ則チ品目ニシテ椅子、テーブルト云フカ如シ品數多キモノハ餘白ヲ充分ニシ少ナキモノハ一枚ノ内數口ニ區別スルモ妨ナシ
- 三 代價ハ受拂トモ第百三十四條ノ價格ヲ登記スルモノトス







第五十二號書式

(縱橫不動線八朱)

物品出納簿

何廳

百五十六

第五十三號書式

(第四百一十一條、第四百四十九條)

(用紙美濃紙)

明治何年度  
物品受入基帳

何廳

百五十七























第五十九號書式

(第四百四十九條)

百六十八

明治何年度物品仕拂證憑書

何廳

第六十號書式

(第四百四十九條)

椅 子(卓子)

何 脚

但賣却拂(棄却拂)(保管轉換)ノ分

證書何枚

百六十九



第六十一號書式

(第五百十條)

(用紙美濃紙)

百七十

保證書

何應物品會計官吏何官何某證明ニ係ル明治何年度(自明治何年何月何日)物品出納計算書中左ノ事項相違無之ニ付保證候也

- 一 計算書受入ノ部並ニ拂ノ部、消耗拂、生産拂ハ各證據書ト符合ス
- 二 計算書ト物品出納簿及計算書現在ノ部ト現存高ト符合ス

何 廳

明治何年何月何日

典獄(分監長) 氏

名 印

第六十二號書式

(第五百十一條)

(用紙美濃紙)

何應物品會計官吏検査調書

何應物品會計官吏轉任(免官、死亡)ニ付帳簿及其現況ヲ検査候處其受排正確ニシテ帳簿(目錄)現在高ト現存高トノ符合ヲ認ム依テ此調書ヲ作ルモノ也

検査員

年月日

官 氏 名 印

何應物品會計官吏(立會人)

官 氏 名 印

百七十一



第六十二號書式

(第百五十五條)

備考

- 一 本簿ハ數年度繼續使用スルモノトス
  - 二 受拂ヲ要スルトキハ保管證書保管主任又ハ其事務分掌者式ノ如ク登記捺印スヘシ
- 從明治何年度  
至明治何年度

保管證書受拂帳

何廳

年月日	保管物種類	證書ノ種類番號	事由	金額	
				受	拂
何年何月何日	金 錢	保管證書 第何號	契約保證金、何 某納	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇
何年何月何日	公債證書	同 第何號	何々何某納	五〇〇〇	一五〇〇〇〇
同	同	同	何々何某納	五〇〇〇	二〇〇〇〇〇
同	同	同	何々何某納	一五〇〇	三〇〇〇〇〇
何年何月何日	同	同	何々何某へ還付	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇
同	何々	同 第何號	何々何某納ノ分 錢入ニ納付	五〇〇〇	三〇〇〇〇〇



第六十四號書式

(第五百五十六條 第六十三條)

百七十四

第	號	證	納	何	某
一金 何 程 (何 品 何 箇)					
但在監人何某へ差入金又へ何々					
右領收候也					
年	月	日	何	職	官
			何	職	官
			領	區	品
			取	扱	主
			任		
			出	納	官
			金	出	納
			現	金	出
			外	現	金
			入	職	官
			職	官	吏
			保	管	證
			書	保	管
			主	任	(又へ其事務分掌者)

第六十五號書式

(第五百五十七條)

明治何年度保管證書受拂報告書

一金參百五拾圓

内

金五拾圓

金參百圓

一金百五拾圓

内

金百圓

金五拾圓

差引金貳百圓

右報告候也

受入高

前年度ヨリ越高

本年度受入高

仕拂高

拂渡高

歳入へ編入高

何處

典獄分監長 支署長 氏

名



年 月 日

司法大臣宛

百七十五



第六十六號書式

(第百六十八條)

備考

- 一 本簿ハ數年度繼續使用スルモノトス
- 二 本簿ハ預入及ハ拂戻ヲ爲ストキ相當ノ區畫ニ其金額ヲ掲ケ送付書又ハ領收證ト割印ヲ爲スヘシ

從明治何年度  
至明治何年度

預金預入及拂戻帳

何廳

年月日	印割		印割		現在預高
	預入高	明治何年何月何日	預入高	明治何年何月何日	
	貳〇〇〇〇		貳五〇〇〇		五、〇〇〇〇
				印割	
				壹〇〇〇〇	
	五、壹貳五〇〇〇		五、〇貳五〇〇〇		五、〇〇〇〇
				四、九貳五〇〇〇	



第六十七號書式

備考

(第百六十九條)

- 一 各廳事務上ノ都合ニ依リ甲又ハ乙ヲ用ヒ或ハ之ヲ使用スルコトヲ得
- 二 本簿ハ刑事被告人、囚人、懲治人、別房留置人各別冊ト爲スモ妨ケナシ
- 三 本簿ハ編成上ノ都合ニ依リ不用ニ歸スル區畫ハ省略スルモ妨ケナシ

在監人區別	入監又ハ編入年月日	刑名刑期又ハ懲治期	收監番號	氏名 某何
刑事被告人	明治何年何月何日		干支第何號	
囚人	明治何年何月何日	何々刑何年何月	干支第何號	
懲治人	明治何年何月何日	何年何月	干支第何號	
別房留置人	明治何年何月何日		干支第何號	

年月日	撈要	所持金			給與工錢		
		受	拂	殘	受	拂	殘
明治何年何月何日	所持金受入	5 00 0		5 00 0			
何	何月中工錢受入				3 80 0		3 80 0
何	何某ヨリ受入金						
何	受入	2 00 0		7 00 0			
何	何々代工錢ノ内ヨリ仕拂				1 00 0		2 80 0
何	何々代所持金ノ内ヨリ仕拂		2 00 0	5 00 0			



第六十七號書式甲

帳 基 金 置 領

百八十

廳

何

第六十七號書式乙ノ一

(用紙與流紙)

帳 基 金 置 領

(所持金之部)

何

廳

百八十



在監人區別	入監又ハ編入年月日	刑名刑期又ハ懲治年月日	收監番號	氏名
刑事被告人	明治何年何月何日		千支第何號	何某
囚人	明治何年何月何日	何年何月何日	千支第何號	
懲治人	明治何年何月何日	何年何月何日	千支第何號	
別房留置人	明治何年何月何日		千支第何號	
年月日	摘要	受	拂	殘
明治何年何月何日	所持金受入(又ハ何年度簿冊) 何某ヨリ越高	五〇〇〇	〇	五〇〇〇
明治何年何月何日	郵便稅任拂	〇	〇	四八七〇
明治何年何月何日	何某ヨリ差入金受入	三〇〇〇	〇	七九七〇
明治何年何月何日	何々代任拂	〇	二五〇〇	五四七〇
明治何年何月何日	放免ニ付殘金下付(又ハ何年其簿冊何票ハ修記)	〇	五四七〇	〇

第六十七號書式乙ノ二

(用紙兼濃紙)

領置金基帳

(給與工錢之部)

何廳







右ハ明治何年何月何日(轉免死亡ノトキハ其事由)歲入歲出外現金出納官吏何某ノ帳簿金櫃ニ就  
キ其現況ヲ檢査シ正確ナルヲ認ム依テ歲入歲出外現金出納官吏(若クハ)立會ノ上檢定書ヲ作り  
各署名捺印スルモノ也

年 月 日

檢 査 員

官 氏 名 團

何應歲入歲出外現金出納官吏(若クハ立會人)

官 氏 名 團

第六十九號書式

(第百八十一條)

(用紙美濃紙)

領 置 物 品 基 帳

何 廳



在監人區別	刑事被告人	囚人	懲治人	別房留置人	年月日	番號	貨物	個數	評價	拂拭	個數	評價	殘	證明及備考	氏名
	何明何何日	何明何何日	何明何何日	何明何何日	何月何何日	一 三尺常		10100	10100		10100			何年何月何日費却	何某
						二 拾		10100	10100		10100			右第一項ヨリ第三項 マテ拜奉 本囚氏名 主氏官 證明印	
						三 股引		10150	10150		10150			右物品第一項第三項 正三領收 何年何月何日	
														本囚氏名 主氏官 證明印	

第七十號書式 (第百八十四條)

出納官吏異動及現金取扱高(保管物品價格)調

部局名	職名	前任者姓名	後任者姓名	現金取扱高(保管物品價格)	保證金高	就任年月日
何集治監(監獄)	收入官吏	何官何某	何官何某	50000	四拾圓	明治何年何月何日
何	金出入出外現 金出納官吏	同	同	150000	〇	同
何監獄支署	同	同	同	〇	〇	同
何	同	同	同	〇	〇	同

右及御届候也

年 月 日 何廳典獄(分監長)官 氏 名 印

司法大臣宛



備考

- 一 第百八十三條第一號ノ場合ニハ此ノ書式ニ依ル但前任者若クハ後任者無キ場合ニハ各其欄ニ斜線ヲ施シ後任者無キ場合ニハ任命年月日ノ欄ニ解職年月日ヲ記入スヘシ
- 二 現金取扱高ハ交替ノ前月ヨリ遡リ滿一箇年ノ現金出納簿記載高ヲ通算シテ之ヲ定ムルモノトス
- 三 保管物品價格ハ交替ノ前月ヨリ遡リ滿一箇年ノ物品出納簿毎月末日ノ現在物品價格ヲ平均シテ之ヲ定ムルモノトス

第七十一號書式

(第百八十四條)

明治何年度末日出納官吏現金取扱高並ニ保管物品價格調						
部局名	職名	官氏名	現金取扱高 保管物品價格	保證金額	既納額	納付額
何集治監(監獄)	收入官吏	何官何某	七〇〇〇〇	四拾圓	四拾圓	〇
何々	歳入歳出外現 金出納官吏	何々	五〇〇〇〇	四拾圓	四拾圓	〇
何々	同	何々	二〇〇〇〇	〇	〇	〇
何々	同	何々	一〇〇〇〇	〇	〇	〇
何々	同	何々	一六〇〇〇〇	四拾五圓	四拾圓	五圓
何々	同	何々	五〇〇〇〇	四拾圓	〇	四拾圓
何々	物品會計官吏	何々	一〇〇〇〇〇〇	百貳拾五圓	百圓	貳拾五圓

右及御届候也

年月日 何廳典獄(分監長) 官氏名 印

司法大臣宛



備考

- 一 第百八十三條第二號ノ場合ニハ此ノ書式ニ依ル
- 二 現金取扱高ハ當該年度現金出納簿記載高ヲ通算シテ掲クルモノトス但臨時ノ取扱高ハ算入ノ限ニ在ラス
- 三 保管物品價格ハ當該年度物品出納簿毎月末日ノ現在價格ヲ平均シテ定ムルモノトス
- 四 第百八十三條第三號ノ場合ニハ此ノ書式ニ準シ調製スヘシ
- 五 前項ノ場合ニ於クル現金取扱高ハ更定ノ日ヨリ遡リ滿一箇年ノ現金出納簿記載高ヲ通算シテ之ヲ定ムルモノトス

第七十二號書式

(第百八十六條)

納付書							
一金 何圓	但現金	右某金庫ノ保管證書第何號ヲ以テ何集治監(何集治監分監何監獄署)ニ致納付候也	何集治監(分監、監獄署、監獄支署)	收入官吏(何々官吏)身元保證金	何集治監(分監、監獄署)收入官吏(何々官吏)	年月日	官氏名印
						司法大臣宛	



第七十二號書式

(第百八十七條)

百九十四

出納官吏自己  
所有ノ公債證  
書ヲ以テ質權  
設定ノ例

○印紙	質權設定證書
番號	
一何公債證書額而何程	壹枚
此平均價格何程	
番號	
一何公債證書額而何程	壹枚
此平均價格何程	
平均價格合計何程	
右拙者所有ニ候處何集治監(分監、監獄署、監獄支署)現金ノ收入(現金前渡出納、 歳入歳出外ノ現金、物品ノ會計)ヲ取扱フ爲メ會計規則第百三條第百五條第百七 條ニ基キ身元保證金何圓ノ代用トシテ前記ノ公債證書ヲ提供シ質權設定致候爲 後日證書仍如斯	

第三者カ出納  
官吏ノ爲メニ  
質權ヲ設定ス  
ルノ例

住所	何集治監(分監、監獄署、監獄支署)收入官吏(何々)
年月日	官 氏 名
司法大臣宛	
右某甲所有ノ處乙某何集治監(分監、監獄署、監獄支署)現金ノ收入(現金前渡 出納、歳入歳出外ノ現金、物品ノ會計)ヲ取扱フ爲メ會計規則第百三條第百五條 第百七條ニ基キ同人身元保證金何圓ノ代用トシテ前記ノ公債證書ヲ提供シ質權 設定致候爲後日證書仍如斯	
住所	
年月日	質權設定者 甲 某

百九十五



住所

何集治監(分監、監獄署) 收入官吏(何々)  
(監獄支署)

官 乙 某 (印)

司法大臣宛

第七十四號書式

(第九十一條)

印紙

抵當權設定證書

何府縣何郡市何町村字番地

住所

一何地 何坪

所有者 氏 名

此土地臺帳登記價格何程

何府縣何郡市何町村字番地

住所

一何地 何町何及何畝何步

所有者 氏 名

此土地臺帳登記價格何程

土地臺帳登記價格合計何程

右拙者所有ニ候處何集治監(分監、監獄署、監獄支署)現金ノ收入(現金前渡出納、  
歳入歳出外ノ現金、物品ノ會計)ヲ取扱フ爲メ會計規則第百三條第百五條第百七  
條ニ基テ身元保證金何圓ノ代用トシテ前記土地所有權ニ對シ抵當權設定致候爲  
後日證書仍如斯

出納官吏カ自  
己ノ土地ヲ以  
テ抵當權ヲ設  
定スルノ例



住所	
何集治監 <small>(分監、監獄署)</small> 收入官吏 <small>(何々)</small>	
年月日	官 氏 名 <small>(實印)</small>
司法大臣宛	
右甲某所有ノ處乙某何集治監(分監、監獄署、監獄支署)現金ノ收入(現金前渡出納、歲入歲出外ノ現金、物品ノ會計)ヲ取扱フ爲メ會計規則第百三條第百五條第百七條ニ基キ同人身元保證金何圓ノ代用トシテ前記ノ土地ニ對シ抵當權設定致候爲後日證書仍如斯	
年月日	抵當權設定者 甲 某 <small>(實印)</small>

第三者カ其所  
有ノ土地ヲ以  
テ出納官吏ノ  
爲メニ抵當權  
ヲ設定スルノ  
例

住所	
何集治監 <small>(分監、監獄署)</small> 收入官吏 <small>(何々)</small>	
年月日	官 乙 某 <small>(實印)</small>
司法大臣宛	



第七十五號書式

(第九十一條)

出納官吏カ自  
己ノ所有ノ土  
地ヲ以テ抵當  
權ヲ設定シタ  
ル場合

登記請求書
何府縣何郡市何町村字番地
一何地 何坪
何府縣何郡市何町村字番地
一何地 何町何反何畝何步
右拙者所有ノ處何集治監(分監、監獄署、監獄支署)現金ノ收入(現金前渡出納、 歲入歳出外ノ現金物品ノ會計)ヲ取扱フ爲メ身元保證金何圓ノ代用トシテ別紙 證書之通抵當權設定條條登記相成度此段及請求候也
住所
何集治監(分監、監獄署、監獄支署) 收入官吏(何々)
年 月 日
官 氏 名
司法大臣宛

第三者カ其所  
有ノ土地ヲ以  
テ出納官吏ノ  
爲メニ抵當權  
ヲ設定シタル  
場合

右甲某所有ノ處乙某何集治監(分監、監獄署、監獄支署)現金ノ收入(現金前渡出 納、歳入歳出外ノ現金物品ノ會計)ヲ取扱フ爲メ身元保證金何圓ノ代用トシテ別 紙證書之通リ抵當權設定候條登記相成度此段及請求候也
住所
抵當權設定者
年 月 日
住所
何集治監(分監、監獄署、監獄支署)收入官吏(何々官吏)
官 乙
某
司法大臣宛



第七十六號書式

(第九百九十三條)

身元保證金免除願	
<small>何集治監(分監、監獄署、監獄支署) 收入官吏(現金前渡出納官吏、歳入歳出外 現金出納官吏、物品會計官吏)</small>	
身元保證金何圓(又ハ何圓ノ内何圓)	官 氏 名
右保證金納付可致ノ處別紙證書ノ通リ保證人相立候間納付方免除被成下度但保證人ハ何レモ丁年以上ニシテ相當ノ資産ヲ有シ候條此段願上候也	
年 月 日	右 官 氏 名 <small>(實印)</small>
司法大臣宛	

第七十七號書式

(第九百九十三條)

印紙	
保 證 書	
身元保證金	身元保證金何圓ノ内
一金 何圓也	一金 何 圓
<small>右何集治監(分監、監獄署、監獄支署) 收入官吏(現金前渡ヲ受ケタル官吏、歳入歳出外現金出納官吏、物品會計官吏) 何某ノ身元保證金ニ有之候處若シ本人取扱金額(保管價格)ニ損失ヲ來シ辨償ヲ命セラレ御指定ノ期限内ニ辨償ヲ爲ササルトキハ會計規則ニ依リ拙者共連帶ニテ引受辨償可致仍爲後日證書如斯</small>	
年 月 日	住 所 職 業
何	某 <small>(實印)</small>
住 所 職 業	何
何	某 <small>(實印)</small>
司法大臣宛	



第七十八號書式

(第九十八條)

二百四

身元保證金(保證書)還付請求書	
何集治監(分監、監獄署、監監支署)元收入官吏(前金前)	
渡出納官吏、歲入歲出外現金出納官吏、物品會計官吏	
官 氏 名	
右明治何年何月何日解職其管理期中ノ出納計算ニ對シ今股會計検査院(何々)ニ	
於テ責任解除相成候間豫テ致納付置候身元保證金(抵當權設定證書、保證書)御	
還付相成度此段請求候也	
住 所	何 某
年 月 日	某
司法大臣宛	

附 錄



○法律第四號 明治二十二年二月十一日

會計法

第一章 總則

第一條 政府ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

一會計年度所屬ノ歳入歳出ノ出納ニ關ル事務ハ翌年度十一月三十日マテニ悉皆完結スヘシ

第二條 租稅及其他一切ノ收納ヲ歳入トシ一切ノ經費ヲ歳出トシ歳入歳出ハ總豫算ニ編入スヘシ

第三條 各年度ニ於テ決定シタル經費ノ定額ヲ以テ他ノ年度ニ屬スヘキ經費ニ充ツルコトヲ得

第四條 各官廳ニ於テハ法律勅令ヲ以テ規定シタルモノ、外特別ノ資金ヲ有スルコトヲ得ス

第二章 豫算

第五條 歳入歳出ノ總豫算ハ前年ノ帝國議會集會ノ始ニ於テ之ヲ提出スヘシ

第六條 歳入歳出ノ總豫算ハ之ヲ經常臨時ノ二部ニ大別シ各部中ニ於テ之ヲ款項ニ區分スヘシ  
總豫算ニハ帝國議會參考ノ爲ニ左ノ文書ヲ添附スヘシ

第一 各省ノ豫定經費要求書但シ各項中各目ノ明細ヲ記入スヘシ

第二 其ノ年三月三十一日ニ終リタル會計年度ノ歳入歳出現計書



第七條 豫算中ニ設クヘキ豫備費ハ左ノ二項ニ分ツ

第一 豫備金

第二 豫備金

第一豫備金ハ避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フモノトス

第二豫備金ハ豫算外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツルモノトス

第八條 豫備金ヲ以テ支辨シタルモノハ年度經過後帝國議會ニ提出シ其ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス

第九條 毎年度大藏省證券發行ノ最高額ハ帝國議會ノ協贊ヲ經テ之ヲ定ム

第三章 收入

第十條 租稅及其ノ他ノ歳入ハ法律命令ノ規程ニ從ヒ之ヲ徵收スヘシ

法律命令ニ依リ當該官吏ノ資格アル者ニ非サレハ租稅ヲ徵收シ又ハ其他ノ歳入ヲ收納スルコトヲ得ス

第四章 支出

第十一條 毎會計年度ニ於テ政府ノ經費ニ充ツル所ノ定額ハ其ノ年度ノ歳入ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第十二條 國務大臣ハ豫算ニ定メタル目的ノ外ニ定額ヲ使用シ又ハ各項ノ金額ヲ彼此流用スルコトヲ得ス

國務大臣ハ其所管ニ屬スル收入ヲ國庫ニ納ムヘシ直ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第十三條 國務大臣ハ左ノ所管定額ヲ費用スル爲ニ國庫ニ向ヒテ仕拂命令ヲ發スヘシ但シ別ニ定ムル所ノ規程ニ從ヒ他ノ官吏ニ委任シテ仕拂命令ヲ發セシムルコトヲ得

第十四條 國庫ハ法律命令ニ反スル仕拂命令ニ對シテ仕拂ヲ爲スコトヲ得ス

第十五條 國務大臣ハ政府ニ對シ正當ナル債主若ハ其ノ代理人ノ爲ニスルニ非サレハ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得ス

左ノ諸項ノ經費ニ限リ國務大臣ハ主任ノ官吏ニ委任シ又ハ政府ノ命シタル銀行ニ委任シテ現金支拂ヲ爲サシムル爲ニ現金前渡ノ支拂命令ヲ發スルコトヲ得

第一 國債ノ元利拂

第二 軍隊軍艦及官船ニ屬スル經費

第三 在外各處ノ經費

第四 前項ノ外總テ外國ニ於テ支拂ヲ爲ス經費

第五 運輸通信ノ不便ナル内國ノ地方ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費

第六 廳中常用雜費ニシテ一箇年ノ總費額五百圓ニ滿タサルモノ

第七 場所ノ一定セサル事務所ノ經費

第八 各廳ニ於テ直接ニ從事スル工事ノ經費但シ主任官ニ付三千圓マテテ限ル



第五章 決算

第十六條 會計検査院ノ検査ヲ經テ政府ヨリ帝國議會ニ提出スル總決算ハ總豫算ト同一ノ様式ヲ用ヒ左ノ事項ノ計算ヲ明記スヘシ

歳入ノ部

歳入豫算額

調定濟歳入額

收入濟歳入額

收入未濟歳入額

歳出ノ部

歳出豫算額

豫算決定後増加歳出額

仕拂命令濟歳出額

翌年度繰越額

第十七條 前條ノ總決算ニハ會計検査院ノ検査報告ト共ニ左ノ文書ヲ添付スヘシ

第一 各省決算報告書

第二 國債計算書

第三 特別會計計算書

第六章 期滿免除

第十八條 政府ノ負債ニシテ其ノ仕拂フヘキ年度經過後滿五箇年内ニ債主ヨリ支出ノ請求若ハ仕拂ノ請求ヲ爲サルモノハ期滿免除トシテ政府ハ其ノ義務ヲ免ル、モノトス但シ特別ノ法律ヲ以テ期滿免除ノ期限ヲ定メタルモノハ各ノ其ノ定ムル所ニ依ル

第十九條 政府ニ納ムヘキ金額ニシテ其ノ納ムヘキ年度經過後滿五箇年内ニ上納ノ告知ヲ受ケサルモノハ其義務ヲ免ル、モノトス但シ特別ノ法律ヲ以テ期滿免除ノ期限ヲ定メタルモノハ各ノ其ノ定ムル所ニ依ル

第七章 歳計剩餘定額繰越豫算外收入定額戻入

第二十條 各年度ニ於テ歳計ニ剩餘アルトキハ其ノ翌年度ノ歳入ニ繰入ルヘシ

第二十一條 豫算ニ於テ特ニ明許シタルモノ及一年度内ニ終ルヘキ工事又ハ製造ニシテ避クヘカラサル事故ノ爲ニ事業ヲ遅延シ年度内ニ其ノ經費ノ支出ヲ終ラサリシモノハ之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

第二十二條 數年ヲ期シテ竣工スヘキ工事製造及其ノ他ノ事業ニシテ經費トシテ總額ヲ定メタルモノハ毎年度ノ仕拂殘額ヲ竣功年度マテ遞次繰越使用スルコトヲ得

第二十三條 誤拂過渡トナリタル金額ノ返納出納ノ完結シタル年度ニ屬スル收入及其他一切



豫算外ノ收入ハ總テ現年度ノ歳入ニ組入ルヘシ但シ法律勅令ニ依リ前金渡概算繰替拂ヲ爲シタル場合ニ於ケル返納金ハ各ノ之ヲ仕拂ヒタル經費ノ定額ニ戻入ル、コトヲ得

第八章 政府ノ工事及物件ノ賣買貸借

第二十四條 法律勅令ヲ以テ定メタル場合ノ外政府ノ工事又ハ物件ノ賣買貸借ハ總テ公告シテ競争ニ付スヘシ但シ左ノ場合ニ於テハ競争ニ付セス隨意ノ約定ニ依ルコトヲ得ヘシ

第一 一人又ハ一會社ニテ專有スル物品ヲ買入レ又ハ借入ル、トキ

第二 政府ノ所爲ヲ秘密ニスヘキ場合ニ於テ命スル工事又ハ物品ノ賣買貸借ヲ爲ストキ

第三 非常急遽ノ際工事又ハ物品ノ買入借入ヲ爲スニ競争ニ付スル暇ナキトキ

第四 特種ノ物質又ハ特別使用ノ目的アルニ由リ生産製造ノ場所又ハ生産者製造者ヨリ直接ニ物品ノ買入ヲ要スルトキ

第五 特別ノ技術家ニ命スルニ非サレハ製造シ得ヘカラサル製造品及機械ヲ買入ル、トキ

第六 土地家屋ノ買入又ハ借入ヲ爲スニ當リ其ノ位置又ハ構造等ニ限アル場合

第七 五百圓ヲ超エサル工事又ハ物品ノ買入借入ノ契約ヲ爲ストキ

第八 見積價格二百圓ヲ超エサル動産ヲ賣拂フトキ

第九 軍艦ヲ買入ル、トキ

第十 軍馬ヲ買入ル、トキ

第十一 試験ノ爲ニ工作製造ヲ命シ又ハ物品ヲ買入ル、トキ

第十二 慈善ノ爲ニ設立セル教育所ノ貧民ヲ備役シ及其ノ生産又ハ製造物品ヲ直接ニ買入ル、トキ

第十三 囚徒ヲ備役シ又ハ囚徒ノ製造物品ヲ直接ニ買入ル、トキ及政府ノ設立ニ係ル農工業場ヨリ直接ニ其ノ生産又ハ製造物品ヲ買入ル、トキ

第十四 政府ノ設立シタル農工業場又ハ慈善教育ニ係ル各所ノ生産製造物品及囚徒ノ製造物品ヲ賣拂フトキ

第二十五條 軍艦兵器彈藥ヲ除ク外工事製造又ハ物件買入ノ爲ニ前金拂ヲ爲スコトヲ得ス

第九章 出納官吏

第二十六條 政府ニ屬スル現金若ハ物品ノ出納ヲ掌ル所ノ官吏ハ其ノ現金若ハ物品ニ付一切ノ責任ヲ負ヒ會計検査院ノ検査判決ヲ受クヘシ

第二十七條 前條ノ官吏水火盜難又ハ其ノ他ノ事故ニ由リ其ノ保管スル所ノ現金若ハ物品ヲ紛失毀損シタル場合ニ於テハ其ノ保管上避ケ得ヘカラサリシ事實ヲ會計検査院ニ證明シ責任解除ノ判決ヲ受クルニ非サレハ其ノ負擔ノ責ヲ免ル、コトヲ得ス

第二十八條 現金又ハ物品ノ出納ヲ掌ルニ付身元保證金ヲ納メシムルコトヲ要スルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ムヘシ



第二十九條 仕拂命令ノ職務ハ現金出納ノ職務ト相兼スルコトヲ得ス

八

第十章 雜則

第三十條 特別ノ須要ニ因リ本法ニ準據シ難キモノアルトキハ特別會計ヲ設置スルコトヲ得  
特別會計ヲ設置スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第三十一條 政府ハ國庫金ノ取扱ヲ日本銀行ニ命スルコトヲ得

第十一章 附則

第三十二條 本法ノ條項帝國議會ニ關涉セサルモノハ明治二十三年四月一日ヨリ施行シ其ノ關  
涉スルモノハ帝國議會開會ノ時ヨリ施行ス

決算ニ係ル條項ハ帝國議會ノ議定ヲ經タル年度ノ歲計ヨリ施行ス

第三十三條 本法ノ條項ト牴觸スル法令ハ各其ノ條項施行ノ日ヨリ廢止ス

○勅令第六十號 明治二十二年四月三十日

會計規則

第一章 會計年度所屬區分、歳入歳出金出納

第一條 歳入ノ年度所屬ハ左ノ區分ニ據ル

第一 納期ノ一定シタル收入ハ其納期末日ノ屬スル年度

第二 隨時ノ收入ニシテ納額告知書ヲ發スルモノハ納額告知書ヲ發シタル日ノ屬スル年度

第三 隨時ノ收入ニシテ納額告知書ヲ發セサルモノハ領收ヲ爲シタル日ノ屬スル年度

第二條 歳出ノ所屬年度ハ左ノ區分ニ據ル

第一 公債ノ元利賞勳年金恩給諸祿ノ類ハ仕拂期日ノ屬スル年度

第二 諸拂戻缺損補填ハ其拂戻又ハ補填ノ決定ヲ達シタル日ノ屬スル年度

第三 俸給手数料旅費ノ類ハ其支給スヘキ事實ノ生シタル時ノ屬スル年度

第四 廳中雜費土木建築費其他物件ノ購入代價ノ類ハ契約ヲ爲シタル日ノ屬スル年度但土木

建築費ノ如キ契約ノ數年ニ涉ルコトヲ得ヘキモノハ契約ニ據リ定メタル仕拂期日ヲ以

テ區分スヘシ

第五 前各項ニ掲ケル類別ニ入サラル費用ハ總テ仕拂命令ヲ發シタル日ヲ以テ年度ノ所屬ヲ

定ムヘシ

第三條 毎年度所屬歳入歳出金ヲ金庫ニ於テ出納スルハ翌年度七月三十一日ニ限リトス

第二章 豫算

第一款 總豫算

第四條 大藏大臣ハ歳入ノ景況ヲ調査シ各省ノ豫定經費要求書ニ基キ歳入歳出總豫算ヲ調製ス

ヘシ總豫算ノ首ニハ歲計全體ニ關スル説明ヲ付スヘシ

第五條 歳入豫算ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シテ調製シ成ルヘク歳入ノ性質ヲ明示スヘシ

九



第六條 歳出豫算ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シテ調製シ成ルヘク經費ノ目的ヲ明ニスヘシ

第七條 歳入歳出總豫算款項ノ區分ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ

第二款 豫定經費要求書

第八條 各省大臣ハ毎年度其所管經費ノ需用高ヲ算定シ前年度ノ定額ト比較テ立テ豫定經費要求書ヲ調製シ前年度八月三十一日マテニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第九條 各省ノ豫定經費要求書ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シ更ニ各項中所要ノ金額ヲ各目ニ區分シ尙ホ必要ノ場合ニ於テハ番號ヲ以テ之ヲ細分シ又經費所要ノ理由計算ノ基ク所ヲ示スヘシ

目ノ區分ハ各省大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ムヘシ

第十條 各省ノ豫定經費要求書ニハ各省所管經費全體ニ關スル説明及各款各項ノ説明ヲ付スヘシ

第三款 仕拂豫算

第十一條 各省大臣ハ毎年度決定ノ豫算定額ニ基キ仕拂命令官毎ニ所要ノ費額ヲ定メ仕拂豫算ヲ調製シ大藏大臣及會計検査院ニ送付スヘシ

仕拂豫算ハ各項ノ金額ヲ示スヘシ

第十二條 仕拂豫算ヲ更定シタルトキハ其計算書ヲ大藏大臣及會計検査院ニ送付スヘシ

第十三條 大藏大臣仕拂豫算若クハ其更定計算書ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ金庫ニ令達スヘシ

第四款 歳入歳出現計書

第十四條 會計法第六條ニ掲タル歳入歳出現計書ハ大藏省ニ備ヘタル主計簿ニ據リ大藏大臣之ヲ調製スヘシ

第十五條 歳入歳出現計書ニハ總豫算ニ定メタル區分ニ從ヒ其年三月三十一日ヲ以テ終リタル年度ニ屬スル歳入歳出ノ七月三十一日ニ於ケル左ノ事項ノ現計ヲ示スヘシ

歳入ノ部

歳入豫算額

調定濟歳入額

收入濟歳入額

收入末濟歳入額

歳出ノ部

歳出豫算額

豫算決定後増加歳出額

仕拂命令濟歳出額



第五款 豫備金支出

- 第十六條 豫備金ハ大藏大臣之ヲ管理ス
- 第十七條 豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途及豫備金ヲ以テ支辨スル費途ノ金額ハ他ノ費途ニ流用スルコトヲ得ス
- 第十八條 第一豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途ハ毎年度豫メ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第十九條 各省大臣第一豫備金ノ支出ヲ要スルトキハ金額理由ヲ示ス所ノ計算書ヲ作り大藏大臣ノ承認ヲ經ヘシ
- 第二十條 大藏大臣第一豫備金ノ支出ヲ承認シタルトキハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ
- 第二十一條 各省大臣第二豫備金ノ支出ヲ要スルトキハ金額理由ヲ示ス所ノ計算書ヲ作り之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ
- 第二十二條 大藏大臣ハ前條ノ計算書ヲ調査シ其意見ヲ付シテ勅裁ヲ請フヘシ
- 第二十三條 第二豫備金支出ノ勅裁アリタルトキハ大藏大臣其事故金額ヲ會計検査院ニ通知シ及官報ニ掲載スヘシ
- 第二十四條 豫備金ヲ以テ補充支辨シタル金額ハ各省大臣其計算書ヲ作り各費途毎ニ説明ヲ付シテ年度經過後五箇月以内ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

大藏大臣ハ豫備金支出ヲ第一豫備金支出ト第二豫備金支出トニ大別シ其總計算書ヲ作り之ニ説明ヲ付シ各省大臣ヨリ送付シタル豫備金支出ノ計算書ト共ニ帝國議會ニ提出スルノ手續ヲ爲スヘシ

第三章 收入

- 第二十五條 收入官吏租稅其他ノ收入金ヲ領收スルトキハ其領收證ヲ納人ニ交付シ領收濟ノ旨ヲ歳入ヲ徵收スル官吏ニ報告スヘシ
- 第二十六條 收入官吏ハ大藏大臣定ムル所ノ規則ニ從ヒ毎月一回若クハ數回其領收シタル金額ヲ金庫ニ拂込ムヘシ但金庫ノ設ナキ運輸通信ノ不便ナル地方ニ在ル收入官吏ノ領收シタル金額ハ該官吏之ヲ保管シ大藏大臣ノ指定ニ從ヒ金庫ニ拂込ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第二十七條 金庫ハ收入官吏又ハ納人ヨリ租稅其他ノ收入金ヲ領收スルトキハ其領收證ヲ拂込人又ハ納人ニ交付シ領收濟ノ旨ヲ歳入ヲ徵收スル官吏ニ通知スヘシ
- 第二十八條 第二十九條 削除
- 第三十條 歳入ヲ徵收スル官吏ハ其徵收簿ノ結果ニ據リ毎月徵收報告書ヲ調製シ参照書類ヲ添ヘ各省大臣ノ定メタル期限ニ之ヲ其事務管理廳ニ送付スヘシ
- 第三十一條 歳入ノ事務管理廳ハ前條ノ徵收報告書ニ據リ毎月徵收總報告書ヲ作り之ニ必要ナル参照書類ヲ添ヘ其翌月中ニ大藏大臣ニ送付スヘシ



第三十一條ノ二

納期ノ一定シタル收入ニシテ納期所屬ノ年度ニ於テ納額告知書ヲ發セサルモ  
ノハ總テ納額告知書ヲ發シタル年度ノ歳入ニ編入スヘシ

十四

第四章 支出

第一款 仕拂命令

第三十二條

仕拂命令官ハ總テ仕拂命令ヲ發スル前其經費ハ正當ニシテ必要ナルヤヲ調査シ該  
經費ノ金額ヲ算定シ又該經費ハ仕拂豫算額ニ超過スルコトナキヤ支出科目及所屬年度ヲ誤ル  
コトナキヤ該經費ハ豫算ヲ以テ定メラレタル目的ニ違フコトナキヤヲ調査スヘシ

第三十三條

仕拂命令ニハ債主若クハ其代理人ノ氏名、仕拂フヘキ金額、支出科目、年度、番號ヲ  
記載スヘシ但支出科目ノ同一ナルモノハ數人ノ債主ニ對シ集合仕拂命令ヲ發シ別ニ各債主ノ  
金額氏名表ヲ添ユルコトヲ得

現金前渡ノ仕拂命令ニハ前渡ヲ受クヘキ官吏ノ資格、氏名(銀行ナレハ其名稱)前渡ヲ爲スヘ  
キ金額、支出科目、年度及番號ヲ記載スヘシ

第三十四條

仕拂命令ハ一項毎ニ之ヲ發スヘシ

第三十五條

仕拂命令官第三十二條ノ調査ヲ了シタルトキハ其仕拂命令ヲ受取人ニ交付スヘシ  
但數人ノ債主ニ對スル集合仕拂命令及仕拂命令ヲ當テタル金庫所在地ノ外ニ在ル債主ニ仕拂  
ヲ要スルモノハ直ニ仕拂命令ヲ金庫ニ送付シ受取人ニ仕拂ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十六條

仕拂命令官前條ニ據リ仕拂命令ヲ受取人ニ交付セントスルトキハ前以テ案内仕拂  
命令ヲ金庫ニ送付スヘシ

第三十七條

第三十八條 削除

第三十九條

現金前渡ノ仕拂命令ハ左ノ區分ニ從ヒ之ヲ發スヘシ

第一 常時ノ費用ニ係ルモノハ每一箇月分ノ費額ヲ豫定シテ仕拂命令ヲ發スヘシ但在外各廳  
ノ經費外國ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費運輸通信ノ不便ナル内國ノ地方ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費其  
他仕拂場所ノ一定セサル經費ハ事務ノ必要ニ由リ二箇月以上六箇月分マテ合セテ仕拂命令  
ヲ發スルコトヲ得

第二 隨時ノ費用ニ係ルモノハ所要ノ費額ヲ豫定シテ事務上差支ナキ限りハ成ルヘク分割シ

テ仕拂命令ヲ發スヘシ

第三 各廳ニ於テ直接ニ從事スル工事ノ經費ハ工事ノ大小ニ由リ其所要ヲ量リ三千圓以内ニ

於テ仕拂命令ヲ發スヘシ

第四十條

會計法第十五條第八ニ據リ現金前渡ヲ爲シタルトキハ左ノ場合ヲ除クノ外更ニ同一  
ノ主任官吏ニ現金前渡ヲ爲スタメ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得ス

第一 前ニ發シタル仕拂命令ノ金額三分ノ二以上ノ仕拂濟證明アリタルトキ但此場合ニ於テ

ハ更ニ發スル仕拂命令ノ金額ト前ニ發シタル仕拂命令ノ仕拂濟證明未濟ノ金額ト合シテ三

十五



千圓ヲ超ルコトヲ得ス

第二 前ニ發シタル仕拂命令ノ金額三千圓未滿ニシテ更ニ發スル仕拂命令ノ金額ト合シテ三千圓ヲ超サルトキ

第四十一條 現金前渡ヲ受ケタル官吏監督ノ規則ハ大藏大臣各省大臣ニ協議シテ之ヲ定ムヘシ

第四十二條 會計法第十五條ニ據リ政府ノ命シタル銀行ニ委任シテ現金仕拂ヲ爲サシムル爲メニ發スル現金前渡ノ仕拂命令ハ國債元利金仕拂ノ場合ニ限ル

第四十三條 仕拂命令ハ所屬年度經過後滿五箇年內ハ仕拂ノ請求アル毎ニ金庫ニ於テ仕拂フモノトス

第四十四條 各年度ニ屬スル經費ヲ精算シテ仕拂命令ヲ發スルハ翌年度六月三十日限リトス

第二款 仕拂命令ノ執行

第四十五條 金庫ハ案内仕拂命令集合仕拂命令若クハ金庫所在地外ニ在ル債主ニ仕拂ヲ要スル仕拂命令ヲ受ケタルトキ其命令式ニシテ且支拂豫算各項ノ金額ニ超過セサルトキハ仕拂ヲ爲スヘシ

金庫ニ於テハ休日ヲ除クノ外毎日其開庫時間內ハ何時ニテモ仕拂命令持參人ニ支拂命令ト引替ニテ現金ヲ交付スヘシ

但集合仕拂命令、金庫所在地外ニ在ル債主ニ仕拂ヲ要スル仕拂命令ニ對シテハ領收證書ト引

替ニ現金ヲ交付スヘシ

第四十六條 左ノ場合ニ於テハ事由ヲ仕拂命令持參人ニ告ケ金庫ニ於テ仕拂命令ノ執行ヲ拒ムヘシ

第一 案内仕拂命令ノ到着セサルトキ

第二 仕拂命令ト案内仕拂命令ト符合セサルトキ

第三 仕拂命令汚損シ案内仕拂命令ト照合シ難キトキ

第四十七條 各年度ノ仕拂命令ニシテ翌年度七月三十一日マテニ仕拂ノ請求ナキ仕拂命令濟金額ニ相當スル資金ハ會計法第二十條ノ歲計剩餘ニ組入レズ國庫ニ於テ繰越整理スヘシ

第四十八條 前條ノ資金中年度經過後滿五箇年內ニ仕拂ノ請求ナクシテ會計法第十八條ノ期滿

免除ニ依リ政府カ負債ノ義務ヲ免レタルモノアルカ爲メ不用トナリタルモノハ其負債ノ期滿

免除トナリタル年度ノ歳入ニ組入ルヘシ

第三款 計算報告

第四十九條 金庫出納役ハ毎月仕拂命令受領濟額報告書ヲ調製シ其翌月中ニ大藏省ニ送付スヘシ但運輸不便ノ土地若クハ遠隔ノ地方ニシテ本文期限ニ據リ難キモノハ豫メ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第五十條 削除



第五章 決算

第一款 總決算

第五十一條 歳入歳出總決算ハ總豫算ト同一ノ區分ニ據リ大藏大臣之ヲ調製スヘシ

第二款 各省決算報告書及收入支出計算書

第五十二條 各省大臣ハ翌年度十二月三十一日マテニ各省豫定經費要求書ト同一ノ區分ニ據リ其省所管ニ屬スル經費ノ決算報告書ヲ調製シ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ  
歳入ヲ徵收スル官吏ハ會計検査院ニ證明ノ爲メ毎年度歳入徵收額計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ年度經過後五箇月以内ニ其歳入事務管理廳ニ送付シ歳入事務管理廳ハ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

仕拂命令官ハ會計検査院ニ證明ノ爲メ毎月支出ノ計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ翌月十五日マテニ其主管大臣ニ送付シ主管大臣ハ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ  
本條第二項第三項ノ場合ニ於テ歳入歳出ニ關スル計算書ハ特ニ監督ノ任アル官吏若クハ特ニ主管大臣ヨリ委任ヲ受ケタル官吏ヨリ直ニ會計検査院ニ送付セシムルコトヲ得

第三款 國債計算書

第五十三條 國債計算書ハ大藏大臣之ヲ調製スヘシ

第五十四條 國債計算書ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ

第一 當該年度末日ニ於ケル國債ノ種類及現高ヲ示ス所ノ計算

第二 當該年度ニ於テ償還シ及仕拂ヒタル各種國債ノ元高及利息ノ計算

第三 最近五箇年度間ニ於ル各種國債増減ノ形況ヲ示ス所ノ計算

第四款 特別會計計算書

第五十五條 特別會計計算書ハ會計法第三十條ニ據リ特別ノ會計ヲ立ルコトヲ許サレタル事務ヲ管理スル所ノ各省大臣之ヲ調製シ毎年度經過後五箇月以内ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第五十六條 特別會計計算書ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ

第一 收入計算

第二 支出計算

第三 最近五箇年度間資金ノ増減

第四 最近五箇年度間損益ノ比較

第六章 定額繰越、過年度支出、定額戻入

第一款 定額繰越

第五十七條 各省大臣會計法第二十一條及第二十二條ニ據リ定額ノ繰越ヲ要スルトキハ翌年度

五月三十一日迄ニ繰越計算書ヲ作り大藏大臣ノ承認ヲ求ムヘシ

本條繰越計算書ハ歳出豫算ノ區分ニ從ヒ調製シ左ノ事項ヲ示スヘシ



第一 繰越ヲ要スル項ノ定額

第二 右定額ニ對シ既ニ仕拂命令濟トナリタル額及當該年度所屬トシテ仕拂命令ヲ發スヘキ額

第三 右定額ニ對シ仕拂命令ヲ發スヘキ額即チ翌年度ニ繰越ヲ要スル額

第四 右定額中全ク不用ニ歸シ決算ニ於テ取消スヘキ額

第五十八條 會計法第二十一條ニ據リ年度内ニ其經費ノ支出ヲ終ラサリシ金額ヲ翌年度ニ繰越サントスルトキハ其繰越サントスル金額ノ計算書ニ各事件毎ニ竣功遅延ノ事由ヲ示シ又請負ニテ爲サシムル工事若クハ製造ナレハ竣功遅延ノ事由ノ外ニ請負人職業住所氏名ヲ示シ契約書ノ寫ヲ添ユヘシ

第五十九條 大藏大臣各省定額ノ繰越ヲ承認シタルトキハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第二款 過年度支出

第六十條 過年度ニ屬スル經費ノ支出ヲ爲ストキハ現年度各省定額ニ對シ仕拂命令ヲ發スヘシ

第六十一條 削 除

第六十二條 第六十條ニ據リ支出セントスル經費ノ金額ハ豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキモノ、外其經費所屬年度ノ豫算ニ於テ該經費ノ屬スル毎項定額中不用トナリタル金額ヲ超過スヘカラス

第三款 定額戻入

第六十三條 仕拂命令官會計法第二十三條但書ニ據リ定額ノ戻入ヲ爲サントスルトキハ其旨ヲ金庫ニ通知スヘシ

第六十四條 金庫ハ定額ニ戻入ヲ爲シタルトキハ其旨ヲ仕拂命令官ニ通知スヘシ

第六十五條 各年度ニ屬スル定額戻入ヲ爲スハ翌年度六月三十日ヲ過クルコトヲ得ス

第六十六條 削 除

第七章 政府ノ工事及物件ノ賣買貸借

第一款 總 則

第六十七條 各省大臣五百圓以上ノ工事ニ付テハ竣功ノ後其工事ヲ監督シタル官吏又ハ技術者ヲシテ之ヲ調書ヲ作ラシムヘシ

契約ニ據リ工事ノ既濟部分又ハ物品ノ既納部分ニ對シ定濟前ニ代價ノ一部分ヲ仕拂ハントスルトキハ各省大臣ハ特ニ検査ノ官吏ヲ命ジテ事實ヲ測定シ其調書ヲ作ラシムヘシ

仕拂命令官ハ前各項ノ調書ニ據ルニアラサレハ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得ス

第六十八條 前條第二項ノ仕拂ヲ爲サントスルトキハ工事ノ既濟又ハ物品ノ既納トナリタル部分ニ對スル代價ノ五分ノ四ヲ超ユヘカラス

第六十九條 工事又ハ物品供給ノ競争ニ加ハラントシ若クハ其契約ヲ結ハントスル者ハ其工事



又ハ物品ノ供給ニ二年以來從事スルコトヲ證明スヘシ  
各省大臣ハ工事又ハ物品ノ性質ニ依リ必要アルトキハ前項ノ外特ニ省令ヲ以テ其競争者ノ資  
格ヲ定ムルコトヲ得

工事又ハ物品賣買ノ競争ニ加ハラントシ若クハ其契約ヲ結ハントスル者ハ現金又ハ公債證書  
ヲ以テ保證金ヲ納ムヘシ

第七十條 前條ノ保證金ハ左ノ制限ニ據リ各省大臣之ヲ定ムヘシ

第一 競争ニ加ハラントスル者ハ其事項ノ見積代金ノ百分ノ五以上

第二 契約ヲ結ハントスル者ハ其事項ノ代金ノ百分ノ十以上

第七十一條 競争ノ落札者請負又ハ賣買ノ契約ヲ結ハサルトキハ其保證金ハ政府ノ所得トス

第二款 競争契約

第七十二條 競争ハ總テ入札ノ方法ヲ以テ之ヲ行フヘシ

第七十三條 入札ノ方法ヲ以テ工事又ハ物件ノ賣買貸借ヲ契約セントスルトキハ其入札期日ヨ  
リ少ナクモ十五日以前ヨリ揭示又ハ官報新聞紙其他ノ方法ヲ以テ成ルヘク廣ク公告スヘシ

第七十四條 前條ノ公告ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ

第一 競争入札ニ付スル事項

第二 契約書案ヲ示ス場所及其契約ノ取結ヲ擔任スル官吏ノ官氏名

第三 競争執行ノ場所日限及時刻

第四 入札ノ保證金額

第七十五條 各省大臣若クハ其委任ヲ受ケタル官吏ハ其競争入札ニ付シタル工事又ハ物件ノ價  
格ヲ豫定シ其豫定價格ヲ封書トシ開札ノトキ之ヲ開札場所ニ置クヘシ

第七十六條 開札ハ公告ニ示シタル場所日限時刻ニ入札人ノ面前ニ於テ之ヲ行フヘシ

入札人又ハ其代理人若シ開札ノ場所ニ出席セサルトキハ其入札ハ無効トス

第七十七條 開札ノ上ニテ各人ノ入札中一モ第七十五條ニ據リ豫定シタル價格ノ制限ニ達セザ  
ルトキハ直ニ入札人ヲシテ再度ノ入札ヲ爲サシムルコトヲ得

第七十八條 落札トナルヘキ同價ノ入札ヲ爲シタル者數名アルトキハ同價ノ入札者ヲシテ直ニ

再度ノ入札ヲ爲サシムヘシ

再度ノ入札ヲ爲スモ尙ホ同價ノ入札アルトキハ直ニ抽籤ヲ以テ落札人ヲ定ムヘシ

第七十九條 競争ノ落札者請負又ハ賣買貸借ノ契約ヲ結ハサルトキハ更ニ競争ヲ行フヘシ

但本條ノ場合ニ於テハ第七十三條ノ期限ヲ七日マテニ短縮スルコトヲ得

第八十條 工事及物件ノ賣買貸借契約書ニハ其契約セントスル事項ノ細密ナル設計、仕譯、落成

期限、受渡期限、保證金額、契約違背ノトキ保證金ニ對スル處分、其他一切必要ナル條件ヲ揭

クヘシ



第八十一條 契約ハ各省大臣若クハ特ニ其委任ヲ受ケタル官吏其契約書ニ署名捺印スルニアラザレハ確定セサルモノトス

第三款 隨意契約

第八十二條 隨意契約書ハ第八十條及第八十一條ニ準據シ之ヲ作ルヘシ但一口五百圓未滿ノ隨意契約ノ場合ニ於テハ本文ノ契約書ヲ省察スルコトヲ得

第八十三條 隨意契約ノ場合ニ於テハ各省大臣ノ見込ニヨリ請負人ノ保證金ヲ免除スルコトヲ得

第八章 出納官吏

第一款 收入官吏、現金前渡ヲ受ケタル官吏

第八十四條 出納官吏ハ其責任ニ屬スル會計ニ付自身ニ事務ヲ執ラサルヲ理由トシテ其責任ヲ免ルコトヲ得ス但各省大臣ノ命令ヲ以テ特ニ其代理官若クハ分任官ヲ定メタルトキハ其代理官若クハ分任官ノ所爲ニ付テハ本條ノ限ニアラス

前項代理官ハ出納官吏ノ事務ノ全部ヲ代理シ分任官ハ其一部ヲ分掌スルモノトス

第八十五條 各省大臣ノ命シタル出納官吏代理官若クハ分任官ハ其所爲ニ付會計法第二十六條ノ責任ヲ免ルコトヲ得ス

第八十六條 出納官吏ハ現金前渡及現金收入ニ關シ大藏大臣ノ指揮監督ヲ受ク

第八十七條 削除

第八十八條 各省大臣ハ所屬出納官吏ノ所爲ニ由リ政府ノ損失ヲ生シタリト認ムル場合ニ於テハ會計検査院ノ判決以前ト雖モ其出納官吏ニ向テ辨償ヲ命スルコトヲ得

第八十九條 前條ノ場合ニ於テ其辨償ヲ命セラレタル出納官吏負擔ノ責ヲ免ルヘキ理由アリト信スルトキハ計算書ヲ作り證書類ヲ添ヘ本屬大臣ヲ經由シテ之ヲ會計検査院ニ送付シ其判決ヲ求ムルコトヲ得

各省大臣ハ前項ノ場合ト雖モ其命シタル損失金ノ辨償ヲ猶豫セス

會計検査院ニ於テ其出納官吏ニ向テ辨償ノ責ナシト判決シタルトキハ其既納ニ係ル辨償金ハ直ニ之ヲ還付ス

第九十條 削除

第九十一條 收入官吏及現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ帳簿金櫃ハ毎年三月三十一日若クハ該官吏轉免死亡停職ノトキ本屬大臣検査員ヲ命シテ之ヲ検査セシムヘシ但臨時ニ現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ帳簿金櫃ハ定時ノ検査ヲ要セス

大藏大臣又ハ各省大臣ハ必要ト認ムルトキハ臨時ニ検査員ヲ命シテ收入官吏及現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ帳簿金櫃ヲ検査セシムルコトアルヘシ

第九十二條 前條ノ検査ヲ執行スルニ當リ主務ノ出納官吏事故ニ由リ自身検査ヲ受クル能ハサ



ルトキハ其代理者若クハ特ニ本屬大臣ノ命シタル官吏ニ於テ立會ヲ爲スヘシ

第九十三條 收入官吏及現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ帳簿金櫃ヲ検査シタルトキハ其檢定書ニ一通ヲ製シ検査員及主務ノ出納官吏若クハ立會人之署名シ一通ハ該官吏若クハ立會人ニ交付シ一通ハ本屬大臣ニ提出スヘシ

第九十四條 收入官吏及現金前渡ヲ受ケタル官吏他ノ公金ノ出納ヲ兼掌スルトキハ別ニ検査ノ方法アルニ拘ハラズ金櫃ノ検査ヲ執行スル場合ニ於テハ他ノ公金ヲ併セテ検査ヲ行フヘシ

第九十五條 第九十六條 削 除

第九十七條 收入官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲メ一年度内ニ執行シタル出納ノ計算書ヲ調製シ證據書類ヲ添ヘ毎年度經過後二箇月以内ニ歳入ヲ徴收スル官吏ニ送付シ歳入ヲ徴收スル官吏ハ其下検査ヲ執行シ下検査書ヲ添ヘ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第九十八條 現金前渡ヲ受タル官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲メ各省大臣ノ定ムル所ニ據リ毎月一回若クハ數回經費仕拂ノ計算書ヲ調製シ證據書類ヲ添ヘ仕拂命令官ニ送付シ仕拂命令官ハ其下検査ヲ執行シ下検査書ヲ添ヘ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ但行軍費航海費ノ如キハ行軍若クハ航海ノ終リタルトキ本條ノ手續ヲ爲スコトヲ得

第九十八條ノ二 分任出納官吏ノ出納ハ總テ主任出納官吏ノ計算トシテ取扱ヒ其報告書及計算書ハ名別ニ提出ヲ要セス但各省大臣若クハ會計検査院ニ於テ必要ト認ムルトキハ特ニ分任出

納官吏ヲシテ報告書又ハ計算書ヲ提出セシムルコトアルヘシ

第九十九條 出納官吏交替ヲ爲シタルトキハ其在職期限經過後六十日以内ニ其在職期間ニ執行シタル會計ノ計算書ヲ調製シ第九十五條第九十七條第九十八條ノ手續ヲ爲スヘシ

第一百條 出納官吏死亡其他ノ事故ニ由リ自身ニ計算書ヲ調製スル能ハサルトキハ各省大臣特ニ命シタル官吏ヲシテ之ヲ調製セシムヘシ

出納官吏定期内ニ計算書ヲ送付セサルトキハ各省大臣ハ他ノ官吏ニ命シテ之ヲ調製セシムヘシ

本條ニ據リ調製シタル計算書ハ出納官吏ノ自身ニ調製シタルモノト見做シ會計検査院ニ於テ検査判決ヲ爲スヘシ

第一百一條 出納官吏ノ計算書ハ提出ノ後修正變更マルコトヲ得ス

第一百二條 會計法第二十八條ニ據リ出納官吏ノ納ムヘキ身元保證金額ハ各省大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定メ會計検査院ニ通知スヘシ

出納官吏相當ノ資産アル者二人以上ヲ以テ保證人ト爲ストキハ各省大臣前項ノ身元保證金ノ全部若クハ一部ヲ免除スルコトヲ得此場合ニ於テハ各省大臣ヨリ保證人ノ住所氏名職業ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

但保證人ノ責任ハ免除シタル保證金額ニ止マルモノトス



第三百三條 身元保證金ハ現金ヲ以テ納ムヘシ但公債證書若シハ土地ヲ以テ現金ニ代用スルコトヲ得

第三百四條 身元保證ノ現金ハ大藏省預金局通常預金ノ利子ヲ付スヘシ  
身元保證ニ供スル公債證書若シハ土地ハ出納官吏ヨリ各省大臣ニ書入トシ其土地ハ出納官吏ノ私費ヲ以テ登記ヲ受クヘシ

第三百五條 會計検査院ノ判決ニ依リ各省大臣出納官吏ノ損失金辨償ヲ命シタル場合ニ於テ其指定シタル期限内ニ出納官吏ヨリ損失金ノ辨償ヲ爲ザルトキハ其身元保證金ヲ以テ償辨ニ充ツヘシ  
前項ノ場合ニ於テ身元保證金ニ代用シタル公債證書若シハ土地ハ各省大臣之ヲ公賣ニ付シ其代價ヨリ損失金額ヲ差引シ剩餘アルトキハ出納官吏ニ返付スヘシ

第三百六條 前條ノ場合ニ於テ出納官吏ノ身元保證金ヲ以テ損失金ノ辨償ニ充ルニ足ラサルトキハ其不足ハ出納官吏ヨリ徵收ヌヘシ  
前項ノ場合ニ於テ身元保證金ニ代用シタル公債證書若シハ土地ハ各省大臣之ヲ公賣ニ付シ其代價ヨリ損失金額ヲ差引シ剩餘アルトキハ出納官吏ニ返付スヘシ

第三百七條 出納官吏數職ヲ兼務シタルガ爲メ各職毎ニ身元保證ヲ爲シタルトキト雖モ身元保證金ハ出納官吏ノ責任其何職ヲ行ヒタルヨリ生シタルヲ問ハス流用シテ辨償ニ充ツヘシ  
保證人ヲ以テ身元保證金ノ免除ヲ得タル官吏損失金ノ辨償ヲ命セラレタル場合ニ於テ辨償スルコト能ハサルトキハ其保證人ヲシテ損失金ヲ辨償セシムヘシ

第三百八條 出納官吏ハ其身元保證金ヲ以テ損失金ノ辨償ニ充テラレタルガ爲メ其身元保證金額定規ノ高ヨリ減シタルトキハ各省大臣ノ指定シタル期限内ニ其減少高ヲ追納スヘシ期限ヲ過キ追納ヲ爲ザルトキハ其職務ヲ執ルコトヲ得ス  
第三百九條 出納官吏轉職其他ノ事故ニ由リ身元保證金ノ増納ヲ要スルトキハ其轉職若シハ事故ノ生シタル日ヨリ起算シ六箇月以内ニ増納スヘシ期限ヲ過キ増納ヲ爲ザルトキハ其職務ヲ執ルコトヲ得ス

第三百十條 出納官吏ノ身元保證金ハ其解職後會計検査院ニ於テ其官吏ノ執行シタル會計事務ニ付責任解除ヲ與ヘタル後ニ非サレハ之ヲ還付セス  
身元保證金トシテ納メタル公債證書若シハ土地ノ價格改定ノ爲メ身元保證金額定規ノ高ヨリ減少シ之カ補填ヲ要スル場合ニ於テハ前項ノ例ニ據ル

第二款 金庫出納役

第三百十一條 會計法第三十一條ニ據リ國庫金ノ取扱ヲ日本銀行ニ命シタル場合ニ於テハ日本銀行總裁ハ金庫出納役トシテ金庫ノ出納ヲ掌ルヘシ

金庫出納役ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲メ毎年度經過後四箇月以内ニ一年度内ニ執行シタル出納ノ計算書ヲ調製シ證書類ヲ添ヘ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ  
金庫出納役ハ會計検査院ノ検査ヲ受クル爲メ毎月各金庫出納内譯書ヲ調製シ證書類ヲ添ヘ



其翌月中ニ大藏大臣ニ送付スヘシ但運輸不便ノ土地若クハ遠隔ノ地方ニシテ本文期限ニ據リ難キモノハ豫メ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

大藏大臣ハ前各項ノ出納計算書及内譯書ヲ調査シ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第九章 帳簿

第一百十二條 大藏省ハ日記簿原簿補助簿ヲ備ヘ國庫ノ計算ニ入ルヘキ一切現金ノ出納ヲ登記スヘシ

第一百十三條 大藏省ハ歳入歳出ノ主計簿ヲ備ヘ總テ歳入ノ豫算額、調定濟額、收入濟額、收入未濟額、歳出ノ豫算額、仕拂命令濟額ヲ登記スヘシ

第一百十四條 歳入ヲ徵收スル官吏ハ徵收簿ヲ備ヘ歳入ノ種類ヲ區分シ定調濟額、收入濟額、不納缺損額、收入未濟額ヲ登記スヘシ

第一百十五條 歳入ノ事務管理廳ハ歳入簿ヲ備ヘ歳入ノ種類ヲ區分シ歳入ノ豫算額、調定濟額、收入濟額、收入未濟額ヲ登記スヘシ

第一百十六條 金庫出納役ハ支出簿ヲ備ヘ歳出ノ科目ヲ區分シ仕拂豫算額、仕拂命令受領濟額ヲ登記スヘシ

第一百十七條 削 除

第一百十八條 收入官吏現金前渡ヲ受ケタル官吏及金庫出納役ハ現金出納簿ヲ備ヘ現金ノ出納ヲ

登記スヘシ

第一百十九條 各年度經過後八箇月ノ末日ニ於テ大藏大臣ハ會計検査官立會ノ上ニテ大藏省ニ備ヘタル主計簿ヲ締切ルヘシ

第十章 雜 則

第一百二十條 本規則ニ據リ當該官吏及金庫出納役ヨリ會計検査院ニ提出スル所ノ證明書ニ關スル規程様式ハ會計検査院ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第一百二十一條 前條ノ外本規則ニ掲ケル諸計算書仕拂命令領收證ノ様式ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ

第一百二十二條 帳簿ノ様式及記入ノ方法ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ

第一百二十三條 本規則ハ明治二十三年四月一日ヨリ施行ス

本規則ト抵觸スル命令ハ本規則施行ノ日ヨリ總テ廢止ス

○勅令第八十四號 明治廿二年六月十一日

物品會計規則

第一條 此規則ニ於テ物品ト稱スルハ政府ニ屬スル器具器械備品消耗品動物其他一切ノ動産ヲ云フ但シ陸海軍ノ兵備ニ關ルモノハ各其ノ規則ニ依ル

政府ノ保管ニ屬スル物品ニシテ各省大臣ニ於テ特ニ指定スルモノハ本規則ヲ準用ス此場合ニ



於テハ各省大臣ヨリ會計検査院へ通知スヘシ

第二條 物品ノ會計ハ總テ年度ヲ以テ區分シ毎年四月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル十二箇月ヲ以テ一年度トス

第三條 物品ノ會計ハ現ニ其出納ヲ執行シタル日ヲ以テ年度ノ所屬ヲ區分スヘシ

第四條 物品ヲ保管シ之カ出納ヲ掌ル者ヲ物品會計官吏トス

第五條 總テ物品ハ責任アル官吏ノ保管ニ付スヘシ

第六條 物品會計官吏ハ各省大臣ノ定メタル規程ニ據リタル命令アルニアラサレハ物品ヲ出納スルコトヲ得ス

第七條 物品會計官吏ハ其ノ故意怠惰ニ由リ保管ノ物品ヲ亡失毀損シタルトキハ辨償ノ責ニ任スヘシ

第八條 各省大臣ノ定メタル規程ニ據リ各官吏以下ノ使用ニ供シタル物品ノ亡失毀損ニ就テハ物品會計官吏ハ合規ノ監督ヲ怠リタル場合ノ外ハ其責任ヲ免ルコトヲ得

第九條 物品會計官吏ハ各省大臣ノ命シタル代理官ノ所爲ニ就テハ其責任ヲ免ルコトヲ得

第十條 物品會計官吏ノ代理官ハ其代理セル所爲ニ就テハ物品會計官吏タルノ責任ヲ免ルコトヲ得ス

物品ノ消耗賣拂亡失毀損生産ノ爲メノ消費及其他物品會計官吏ノ保管ヲ離ル、ヲ出トシ買入

生産及其ノ他其ノ保管ニ屬スルヲ納トス

各省大臣ハ検査ノ官吏ヲ命シ四年以内ヲ以テ一期トシ物品會計官吏ノ保管スル物品ノ全部ヲ精細ニ検査セシメ其ノ調査ヲ作ラシムヘシ但應費ニ屬スル物品ハ各省大臣適宜ニ検査ノ方法ヲ設クヘシ

第十一條 常時出納ヲナサ、ル倉庫若ハ貯藏所ノ物品ハ各省大臣ヨリ毎年一回若ハ物品會計官吏交替ノ際検査ノ官吏ヲ命シ目録ト現在品ノ照合ヲナサシメ其ノ調査ヲ作ラシムヘシ

第十二條 在外各廳其ノ他特ニ主任ノ官吏ヲ置ク能ハサル支部局ニアル物品ハ各省大臣ヨリ毎年一回若ハ物品會計官吏交替ノ際検査ノ官吏ヲ命シテ現在品及出納ノ實況ヲ調査セシメ其ノ調査ヲ作ラシムヘシ

第十三條 第十條ノ二第十一條第十二條ノ調査ニハ検査官吏及検査ヲ受タル物品會計官吏若ハ特ニ命セラレタル立會人之ニ署名スヘシ

第十四條 削除

第十五條 物品會計官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受ル爲メ毎年度間ニ執行シタル物品出納ノ計算書ヲ製シ會計検査院所定ノ期限内ニ證據書類ヲ添ヘ之ヲ本屬大臣ニ差出スヘシ

物品會計官吏交替ヲナシタルトキハ前任官吏ハ前項ニ準シテ計算書ヲ差出スヘシ但シ前任官吏死亡其ノ他ノ事故ニ由リ自身計算書ヲ調製スル能ハサル場合ニ於テハ各省大臣ハ他ノ官吏



ニ命シテ之ヲ調製セシムヘシ

第十六條 前條第二項但書ニ據リ調製シタル計算書ハ責任ヲ有スル物品會計官吏ノ自身ニ調製シタルモノト同一ニ見做シ會計検査院ニ於テ検査判決ヲナスヘシ

第十七條 各省ノ部長若ハ特ニ監督ノ任アル官吏ハ第十五條計算書ノ下検査ヲ執行シ其下検査書ヲ添付シテ之ヲ會計検査院ヘ送付スヘシ

第十八條 常時出納ヲナサ、ル倉庫若ハ貯藏所ノ物品又ハ在外各廳其ノ他特ニ主任ノ官吏ヲ置ク能ハサル支部局ノ物品ヲ保管スル物品會計官吏ハ第十一條又ハ第十二條ノ調書ヲ以テ第十五條ノ計算書ニ代ヘ責任ノ解除ヲ會計検査院ニ求ムルコトヲ得

第十九條 會計規則第八十四條第八十五條第八十八條第八十九條第九十八條ノ二及第二百二條乃至第一百十條ハ物品會計官吏ニ準用ス

第二十條 物品ノ保管出納ニ關スル規定及帳簿ノ様式ハ各省大臣之ヲ定メ發付前之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第二十一條 官吏ノ執務上必要ナル物品ノ交付及其交付ヲ受ケタル官吏ノ責任ニ就テハ各省大臣之ヲ規定ス

第二十二條 此ノ規則ハ明治二十二年十月一日ヨリ施行ス

○勅令第二二號 明治二十三年一月四日

預金規則ニ定ムタルモノ、外法律勅令又ハ從來ノ規則ニ依リ政府ニ於テ保管ノ義務ヲ有スル公有金私有金ハ總テ「大處省預金局」ニ寄托スヘシ

法律勅令又ハ從來ノ規則ニ依ルノ外政府ハ公有金私有金ヲ保管セス

○勅令第四號 明治二十三年一月二十日

第一條 左ノ出納官吏ニシテ其取扱金額一箇年五百圓以上又ハ常時保管スル物品ノ價格千圓以上ニ達スルモノハ身元保證金ヲ納ムヘシ但シ兵備品ノ出納ヲ取扱フ武官ハ本條ノ限リニアラス

第一 現金ノ領收ヲ常職トスル官吏

第二 常時現金前渡ヲ受ケル官吏

第三 物品會計官吏

第二條 身元保證金ハ就職ノ時納付スヘキモノトス但現ニ明治二十三年四月一日ニ在職セル出納官吏ニ限リ明治二十三年四月以後明治二十八年三月マテ五箇年間ヲ期シ其身元保證金額ヲ平分シ毎年四期又ハ毎月ニ之ヲ納付セシムヘシ前項明治二十三年四月一日ニ在職セル出納官吏ニシテ土地若クハ公債證書ヲ以テ身元保證金ニ代用セントスル者ハ明治二十三年九月マテ



ニ一時ニ納付セシムヘシ

第三條 身元保證金ニ代用セントスル公債證書ハ有利益ノモノヲ以テシ其價格ハ明治二十三年三月中東京取引所平均ノ相場ニ依リ爾後五箇年毎ニ其年三月中ノ同所平均相場ニ依リ其價格ヲ改定スヘシ但明治二十三年三月以後新ニ發行シタル公債證書ノ價格ハ身元保證金納付前月ノ東京取引所ノ平均相場ニ依リ爾後本條ノ期限ト同時ニ其價格ヲ改定スヘシ

第四條 身元保證金ニ代用セントスル土地ノ價格ハ總テ土地臺帳ニ登記ノ價格ニ依ルヘシ

第五條 會計規則第百五條第二項ニ依リ身元保證金ニ代用シタル公債證書若クハ土地ヲ公賣スルトキハ其公賣公告入費ハ損失金ノ辨償ヲ命セラントタル出納官吏ヲシテ辨償セシムヘシ

第六條 削除

附 則

本令ハ明治二十七年一月一日ヨリ施行ス(本項ハ第六條削除ノ附則ナリ)

○勅令第三十五號 明治廿三年三月廿日

政府ニ屬スル歳入歳出外ノ現金ヲ取扱フ出納官吏ニ關スル規則ハ會計規則第八章及第九章中現金ヲ領收スル收入官吏ニ關スル各條ニ準據ス

○勅令第百二十五號 明治二十三年七月十四日

官吏選族扶助法納金收入規則

第一條 本年法律第四十四號官吏選族扶助法第二條ニ依リ文官判任以上ノ者アリ國庫ニ納ムヘキ金員ハ俸給仕拂ノトキ金庫ニ於テ之ヲ差引ヘシ但現金前渡ヲ受ケタル官吏ニ於テ俸給ノ仕拂ヲナストキハ該官吏ニ於テ之ヲ差引ヘシ

郡書記ノ納ムヘキ金員ハ俸給仕拂ノトキ郡役所會計吏ニ於テ之ヲ差引ヘシ

第二條 前條ニ依リ金庫ニ於テ差引シタル金員ハ收入官吏ヨリ金庫ヘノ拂込ニ移シテ計算シ直ニ報告書ヲ作り收入官吏ニ送付スヘシ

前條ニ依リ現金前渡ヲ受ケタル官吏及郡役所會計吏ニ於テ差引シタル金員ハ納金額表ヲ添ヘ之ヲ收入官吏ニ送付スヘシ

第三條 俸給ノ増減ニ依リ既納ノ金員ニ過不足ヲ生スルトキハ次期ノ俸給支給ノトキ之ヲ整理スヘシ

免官退官轉任死亡ニ依リ過渡俸給ノ返納ヲ要スルトキハ其百分ノ一ヲ納人ニ於テ差引スヘシ

○勅令第七十號 明治廿六年七月十日

各官廳ニ於テ管理スル政府所有ノ有價證券ハ保管ノ爲メ「大藏省預金局」ニ寄託スヘシ  
政府ニ於テ保管ノ義務ヲ有スル公有私有ノ有價證券ハ「大藏省預金局」ニ寄託スヘシ

○勅令第四百三十三號 明治卅二年十一月十六日

日本勸業銀行法第三十四條ニ依リ發行シタル勸業債券ハ會計規則第六十九條及第百三條ノ保證



金ニ使用スルコトヲ得

身元保證金ニ代用セムトスル勸業債券ノ價格ハ明治二十三年勅令第四號第三條ノ例ニ依ル

○大藏省令第十三號 明治二十二年十月四日

出納官吏現金取扱規則

第一章 義務委託

第一條 金庫所在地ノ出納官吏ハ其取扱フ所ノ現金ヲ保管ノ爲メ其地ノ金庫ニ委託スヘシ

第二條 前條ニ據リ委託ヲ爲シタルトキハ出納官吏ハ其資格氏名ヲ記シタル印鑑ヲ金庫ニ送付スヘシ

第三條 出納官吏ヨリ保管金ノ拂込ヲナストキハ金庫ハ其保管金引出切符用紙ヲ添ヘ現金ト引換ニ之ヲ出納官吏ニ交付スヘシ

第四條 出納官吏ノ職務ヲ任命シタル當該官ハ其義務委託ヲナスヘキ出納官吏ノ資格氏名ヲ金庫ヘ通知スヘシ

但陸軍省海軍省ノ出納官吏ノ資格氏名ハ其所屬長官ヨリ通知スヘシ

第五條 金庫ハ前條出納官吏資格氏名ノ通知ヲ受クルニ非サレハ現金ノ支拂ヲナスヘカラス

第六條 出納官吏ハ保管金ノ仕拂ヲ金庫ニ請求セントスルトキハ總テ引出切符ヲ以テスヘシ

第七條 出納官吏ハ其委託シタル保管金ト同種ノ貨幣ヲ以テ仕拂ヲ請ハントスルトキハ拂込ノ

際特ニ之ヲ金庫ニ求ムヘシ拂込ノ際特別ノ請求ナキモノハ總テ有合ノ通貨ヲ以テ仕拂フヘシ

第八條 出納官吏ハ其委託シタル保管金ヲ以テ收支又ハ返納ノ爲メ金庫ニ拂込ヲナサントスルトキハ引出切符ヲ以テ拂込ヲ爲スヘシ

第九條 陸海軍隊費ニシテ現金支拂ヲ要スル場合及廳中雜費工事費ニシテ小口ノ現金仕拂ヲ要スル場合ニ於テハ金庫所在地ニアリテモ所要ノ金額ニ限リ本規則第二章ニ據リ現金ヲ保管スルコトヲ得

前項所要ノ金額ハ仕拂命令官之ヲ定ム

第十條 出納官吏在勤地外ニ於テ取扱フ所ノ現金ハ本章ニ準シ便宜其他ノ金庫ニ委託スルコトヲ得

第二章 隨意保管

第十一條 金庫ノ設ナキ場所ニ於テ現金ヲ保管スル所ノ出納官吏ハ堅牢ナル函ヲ備ヘ之ニ其保管ニ係ル現金及ヒ出納ノ帳簿ヲ藏置スヘシ

二人以上共同責任ヲ以テ現金ヲ保管スル場合ニ於テハ二個以上ノ鎖鑰ヲ有スル堅牢ノ函ヲ備ヘ出納官吏其鎖鑰ヲ分管スヘシ

出納官吏現金ヲ携帶シテ旅行スル場合ニ於テハ前二項ニ據ラス相當ノ保護法ヲ設クルコトヲ得



第十二條 出納官吏ノ保管ニ係ル現金ハ私有金ト混スルヲ得ス

第十三條 出納官吏他ノ公金ノ出納ヲ兼掌スルトキハ其現金ヲ官金ト同一ノ函中ニ藏置スルコトヲ得

第十四條 出納官吏ハ第十一條ニ據リ現金保管ヲナシ難キ場合ニ於テハ自己ノ責任ヲ以テ確實ナル銀行又ハ身代ノ確實ナル一人ニ其保管スヘキ現金ノ保管ヲ托スルコトヲ得

第三章 拂込

第十五條 金庫所在地ノ收入官吏現金ヲ以テ租稅其他ノ收入ヲ收納スルトキハ毎日之ヲ取纏メ拂込書ヲ添ヘテ翌日マテニ金庫ニ拂込ムヘシ但收入金額五拾圓未滿ナルトキハ每一ヶ月取纏メ金庫ニ拂込ムコトヲ得

第十六條 金庫ノ設置ナキ地方ノ收入官吏現金ヲ以テ租稅其他ノ收入ヲ收納スルトキハ左ノ制限ニ從ヒ之ヲ取纏メ拂込書ヲ添テ大藏大臣ノ指定シタル金庫ニ拂込ムヘシ但次條ニ定メタル場合ハ此限ニアラス

第一 收入金高五拾圓未滿ハ 每一箇月

第二 同 百圓未滿ハ 毎十日

第三 同 三百圓未滿ハ 毎五日

第四 同 三百圓以上ハ 翌日限

第十七條 運輸通信ノ不便ナル地方ニシテ金庫ノ設置ナキ場合ニ於テ收入官吏現金ヲ以テ租稅其他ノ收入ヲ收納スルトキハ其金額ノ監守證ヲ製シ最近便ヲ以テ大藏大臣ノ指定シタル金庫ニ送付スヘシ

第十八條 金庫ハ前條ノ場合ニ於テ收入官吏ト同場所又ハ其場所ト爲替送金ノ便アル地方ニ於テ仕拂フヘキ仕拂命令ヲ受ルトキハ收入官吏ノ監守證ニ頒收證ヲ添ヘテ之ヲ受取人ニ送付スヘシ

第十九條 收入官吏ハ前條ノ受取人ヨリ監守證ヲ以テ現金ノ拂渡ヲ請求セラルトキハ其監守證ト引替ニ現金ヲ交付シテ金庫ノ領收證ヲ受クヘシ

雜則

第二十條 本規則ハ收入官吏現金前渡ヲ受タル官吏特別會計ニ係ル官金出納官吏ニ適用ス

第二十一條 本規則ハ明治二十三年四月會計法施行ノ日ヨリ施行ス

大藏省令第十六號 明治二十二年十二月廿八日

前金渡概算渡ノ返納金ヲ定額ニ戻入スル取扱規程

第一條 前金渡概算渡ノ返納金ニシテ經費ノ定額ノ戻入ヲ要スルモノアルトキハ仕拂命令官ヨリ返納人ニ對シ返納告知書ヲ發シ同時ニ通知書ヲ金庫ニ送付スヘシ



第二條 返納人ハ返納告知書ニ現金ヲ添ヘ其返納告知書ニ指定シタル金庫ニ之ヲ拂込ムヘシ  
第三條 金庫ハ現金ヲ領收シタルトキハ其領收證書ヲ返納人ニ交付シ其通知書ハ直チニ當該仕  
拂命令官ニ送付スヘシ

第四條 前金渡概算渡ノ返納金ニシテ經費ノ定額ニ戻入ヲ要セサルモノハ通常歳入金取扱手續  
ニ依リ返納人ヲシテ金庫又ハ收入官吏ニ納入セシムヘシ

第五條 本規程ニ依リ發スル返納告知書ハ左ノ書式ニ依リ調製スヘシ  
(書式零ス)

○大藏省令第二十七號 明治二十三年十月八日

受取人ニ現金交付前誤拂過渡ヲ發見シタルトキ整理手續

會計規則第三十五條但書ニヨリ金庫ニ送付シタル仕拂命令及仕拂請求書ニシテ受取人ニ現金交  
付前ニ於テ誤拂過渡ニ出タルコトヲ發見シタルトキ整理手續左ノ通り定ム

第一條 仕拂命令官ヨリ仕拂命令及仕拂請求書ノ金額誤拂過渡ニ付歳入ニ編入ノ備金庫へ請求  
スヘシ但仕拂命令及仕拂請求書ノ金額一部分誤拂過渡ナルトキハ其一部分ヲ受取人ニ交付シ  
殘額ハ歳入ニ編入ノ備金庫へ請求スヘシ

第二條 前條ノ請求書ニハ左ノ事項ヲ詳記スヘシ

一 仕拂命令及仕拂請求書ノ金額、番號、年度、科目、振出日付、仕拂命令官官、氏名、受取人氏名

一 誤拂過渡ヲ歳入トスヘキ歳入ノ主管廳名取扱廳名、歳入徴收官官氏名及歳入ノ年度

第三條 仕拂命令官第一條ノ請求ヲ爲シタルトキハ同時ニ誤拂過渡ノ金額歳入ニ編入ノ儀ヲ歳  
入徴收官ニ通知スヘシ

第一條但書ノ場合ニ於テハ仕拂命令官ハ正當ニ交付スヘキ金額ニ對スル通知書ヲ作り之ヲ債  
主ニ交付シ前ニ交付シタル通知書ハ取上ケ廢棄スヘシ

第四條 第一條ノ請求ヲ受ケタルトキハ金庫ハ誤拂過渡ノ金額ヲ歳出ノ手續ヲ以テ拂出シ直チ  
ニ之ヲ請求書ニ指定ノ歳入主管廳取扱廳及歳入徴收官ノ收入トシテ歳入ニ受入ルヘシ此場合

ニ於テ金庫ハ直チニ其趣ヲ仕拂命令官及歳入徴收官ニ通知スヘシ

第五條 前條ニ依リ金庫ヨリ仕拂命令官ニ送付スル通知書ニハ第二條一項ノ事項ヲ記入スヘシ  
但仕拂命令及仕拂請求書ノ金額一部分誤拂過渡ノ場合ニハ其誤拂過渡ニ係ル金額ヲモ記入ス  
ヘシ

前條ニ依リ金庫ヨリ歳入徴收官ニ送付スル通知書ニハ第二條一項及二項ノ事項ヲ記入スヘシ

第六條 削除

第七條 本年大藏省令第十七條ニ依リ定メタル書式ノ仕拂命令及仕拂請求書ニシテ本令ノ場合  
ニ係ルトキ其國庫納金引去高ハ總テ本年勅令第二百二十五號官吏遺族扶助法納金收入規則ニ依  
リ當該主管廳取扱廳ノ歳入ニ立テ其他ハ本令ニ依リ收支ノ手續ヲナスヘシ



○大藏省令第十一號 明治二十四年五月廿五日

現金領收ノ後納額告知書等ノ年度誤謬訂正手續

金庫ニ於テ現金領收濟ノ後納額告知書現金拂込書及納付書記載ノ年度ニ誤謬アルコトヲ發見シタルトキ訂正手續左ノ通り定ム

第一條 納額告知書納付書記載ノ年度誤謬ノ場合ニ於テハ歲入徵收官又現金拂込書記載ノ年度誤謬ノ場合ニ於テハ收入官吏ヨリ訂正方ヲ金庫ニ請求スヘシ

第二條 金庫ニ於テ前條ノ請求ヲ得タルトキハ帳簿ヲ訂正シ直チニ其旨ヲ歲入徵收官ニ報告シ歲入徵收官ハ金庫ノ報告ニ依リ金庫ニ於テ訂正セシムニ於テ帳簿ヲ訂正スヘシ

前項ニ依リ訂正ヲナスハ翌年度七月三十一日迄ニ請求書ノ金庫ニ到達シタルモノニ限ル

第三條 金庫ニ領置シタル納額告知書現金拂込書又ハ納付書ニハ金庫ニ於テ又領收濟通知書ニハ歲入徵收官ニ於テ訂正ノ事由ヲ附記シ置クヘシ

○大藏省令第十九號 明治二十六年九月二十日

預金取扱規程

第一條 明治十八年布告第十三號明治二十三年法律第七十五號ニ依ル預金ノ保管受渡ハ此ノ規程ニ依リ金庫ニ於テ取扱フモノトス

第二條 預ク人ニ於テ預ク金ヲ爲ストキハ現金ニ第一號書式ノ拂込書及第二號書式ノ印鑑ヲ添

ヘ金庫ヘ差出スヘシ但第二回以後ノ預ク金ヲ爲ス場合ニハ印鑑ヲ要セス

第三條 金庫ニ於テ前條ノ現金ヲ領收シタルトキハ第三號書式ノ預金通帳ニ記入證印シ之ヲ預ク人ヘ交付スヘシ

第四條 預ク人ニ於テ預金ヲ以テ公債證書ノ購入ヲ請求スルトキハ第四號書式ノ請求書ヲ其預ク金ヲ爲シタル金庫ヘ差出スヘシ金庫ハ式ノ如ク該預リ金額ヲ記入證明シ之ヲ大藏省ヘ進達スヘシ

第五條 大藏省ニ於テ前條ノ請求書ヲ受クタルトキハ請求書到達ノ日ヨリ休日ヲ除キ五日以内ニ日本銀行ヲシテ時價ヲ以テ公債證書ヲ購入シ之ヲ中央金庫ヘ納付セシメ其額面金高購入代價ヲ記載シタル第五號書式ノ通知書ヲ製シ金庫ヲ經テ之ヲ預ク人ヘ送付スヘシ

第六條 大藏省ニ於テ預金制限超過額ヲ以テ公債證書ヲ購入スル場合ニハ日本銀行ヲシテ時價ヲ以テ購入シ之ヲ中央金庫ヘ納付セシメ其額面金高購入代價ヲ記載シタル第五號書式ノ通知書ヲ製シ金庫ヲ經テ之ヲ預ク人ヘ送付スヘシ

第七條 中央金庫ニ於テ前二條ニ依リ日本銀行ヨリ公債證書ヲ領收シタルトキハ第六號書式ノ保管證書ヲ調製シ之ヲ取扱金庫ヘ送付スヘシ

第八條 預ク人ニ於テ公債證書購入濟ノ通知ヲ受クタルトキハ該通知書ニ式ノ如ク保管證書領收ノ證印ヲ爲シ預金通帳ヲ添ヘ之ヲ金庫ヘ差出シ該通帳ニ購入代價ニ對スル預金仕拂ノ記入



證印ヲ受ケ保管證書ヲ受取ルヘシ

第九條 預ク人ニ於テ預金ノ拂戻ヲ要スルトキハ第七條書式ノ領收證書ニ預金通帳ヲ添ヘ之ヲ其預ク金ヲ爲シタル金庫ヘ差出スヘシ

第十條 金庫ニ於テ前條ノ拂戻請求ヲ受ケタルトキハ預金通帳ヘ式ノ如ク記入調印シ現金ノ仕拂ヲ爲スヘシ

官立學校及圖書館會計規則第四條ニ依レル預金ノ拂戻額及公債證書購入代金トシテ仕拂額ハ同會計資金部歳出豫算額ニ超過スルヲ得ス

第十一條 預ク人ニ於テ公債證書全部ノ受戻ヲ請求スルトキハ保管證書ヘ式ノ如ク裏書ヲ爲シ

第八號書式ノ請求書ト共ニ中央金庫ヘ差出スヘシ

第十二條 預ク人ニ於テ公債證書ノ内幾分受戻ヲ請求スルトキハ第九號書式ノ請求書ニ第十號書式ノ領收證書及保管證書ヲ添ヘ之ヲ中央金庫ヘ差出スヘシ

中央金庫ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ保管證書ニ式ノ如ク裏書ヲ爲シ該公債證書ト共ニ返付スヘシ

第十三條 中央金庫ニ於テ前二條ノ請求ヲ受ケタルトキハ請求書到達ノ日ヨリ休日ヲ除キ五日以内ニ保管ノ公債證書ヲ交付スヘシ

書留郵便其他ノ運送便ヲ以テ遞送ヲ留ムモノアルトキハ預ク人ノ危険ニテ之ヲ遞送スヘシ

第十四條 前條ノ遞送費ハ預ク人ノ負擔トシ書留郵便ヲ以テ遞送ヲ要スルモノハ相當ノ郵便切

手ヲ前以テ中央金庫ヘ送付シ其他ノ便ニヨルモノハ遞送賃金先拂ヲ以テ遞送スヘシ

第十五條 預金ノ利子ハ毎年三月末日ヲ期トシ之ヲ計算シ其元金ニ組入ルヘシ

金庫ハ直ニ前項ノ利子ヲ日本銀行又ハ其支店代理店ヨリ領收スヘシ

日本銀行又ハ其支店代理店ハ前項利子ヲ金庫ヘ交付シ第十一號書式ノ領收證書ヲ徴スヘシ

預ク人ハ毎年四月預金通帳ヲ其預ク入ヲ爲シタル金庫ヘ差出シ利子元加ノ記入ヲ受クヘシ

第十六條 元金ニ加ハサル預金ノ利子ハ預金ノ全額ヲ拂戻ストキニ限り之カ仕拂ヲ爲スモノト

ス

預ク人ニ於テ前項ノ利子ヲ受取ラントスルトキハ第十二號書式ノ請求書ヲ金庫ヘ差出スヘシ

第十七條 金庫ニ於テ前條第二項ノ請求書ヲ受ケタルトキハ利子金額ヲ算出シ式ノ如ク之ヲ記入證明シ中央金庫ニ在ツテハ日本銀行ヘ本支金庫ニ在ツテハ日本銀行ノ支店代理店ヘ之ヲ回

付スヘシ

第十八條 日本銀行又ハ其支店代理店ニ於テ前條ノ請求書ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ利子受

取人ヲシテ式ノ如ク受領ヲ證セシメ其現金ヲ交付スヘシ

第十九條 預金ハ預ク入タル月及拂戻ス月ハ其金額ニ利子ヲ附セス

預金ハ拾錢未滿ノ端金ニ利子ヲ附セス



- 第三十條 第七條ニ依リ領收シタル公債證書ノ利子ハ中央金庫ニ於テ受取リ取扱ノ金庫ヲシテ之ヲ所有主ノ預金ニ組入レシメ第十三號書式ノ通知書ヲ製シ金庫ヲ經テ之ヲ預ケ人ヘ送付スヘシ
- 第二十一條 預ケ人ニ於テ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ預金通帳ニ該通知書ヲ添ヘ其預金ヲ爲シタル金庫ヘ差出シ金額預ケ入ノ記入ヲ受クヘシ
- 第二十二條 預ケ人ニ於テ預金金額ノ拂戻ヲ受ケタルトキハ預金通帳ヲ返付スヘシ
- 第二十三條 預ケ人ニ於テ甲ノ金庫ヨリ交付シタル預金通帳ヲ以テ乙ノ金庫ニテ受渡ヲ請求スルトキハ第十四號書式ノ申込書及印鑑ニ預金通帳ヲ添ヘ乙金庫ヘ差出シ番記號ノ書換ヲ受クヘシ
- 第二十四條 預金ノ受渡ニ關スル書類ニハ共有ニ係ルモノハ其總代人二名調印シ又社寺教會々社ニアリテハ其名稱ヲ記シ且押印ヲ爲シ其擔當者一名記名調印スヘシ但法人タル會社ニアリテハ擔當者ノ記名調印ヲ要セス
- 第二十五條 前條ノ社寺教會々社ニシテ名義變更改印位置移轉シタルトキハ其旨金庫ヘ届出ツヘシ擔當者總代人氏名變換改印轉住ノトキ又同シ
- 前項改印ノ届書ニハ印鑑ヲ添フヘシ
- 第二十六條 前條ノ擔當者及總代人變更シタルトキハ前任者連署ノ届書ニ後任者ノ印鑑ヲ添ヘ

金庫ヘ差出スヘシ但前任者連署シ能ハサルトキハ證人ヲ立ツヘシ  
(書式略ス)

○大藏省令第二十號 明治二十六年九月廿日

信管物取扱規程

- 第一條 明治二十三年勅令第二號明治二十六年勅令第七十號ニ依ル金錢有價證券ノ保管受渡ハ此規程ニ依リ金庫ニ於テ取扱フモノトス
- 第二條 現金又ハ有價證券ハ權利者ヨリ寄托スルモノト官廳ヨリ寄托スルモノトノ二種ニ分チ之ヲ取扱フヘシ
- 第三條 取扱官廳ニ於テ權利者ヲシテ現金又ハ有價證券ヲ寄托セシムルトキハ第一號書式ノ寄托通知書ヲ製シ之ヲ權利者ヘ交付スヘシ
- 第四條 權利者ハ現金又ハ有價證券ニ前條ノ寄托通知書ヲ添ヘ之ヲ金庫ヘ差出スヘシ
- 第五條 金庫ニ於テ前條ノ寄托ヲ受ケタルトキハ第二號書式ノ保管證書ヲ製シ之ヲ權利者ヘ交付スヘシ
- 第六條 官廳ニ於テ現金又ハ有價證券ヲ寄托スルトキハ第三號書式ノ送付書ヲ製シ之ヲ現金又ハ有價證券ニ添ヘ金庫ヘ送付スヘシ
- 第七條 金庫ニ於テ前條ノ寄托ヲ受ケタルトキハ第四號書式ノ領收證書ヲ製シ之ヲ寄托官廳ヘ



交付スヘシ

第八條 官廳ニ於テ數人ノ權利者ニ屬スル現金ヲ取纏メ寄托スルトキハ其送付書ニ第五號書式ノ仕譯書ヲ添送付スヘシ

但權利者不分明ナル者ハ其旨ヲ送付書又ハ仕譯書ニ記入スヘシ

第九條 取扱官廳ハ本規程ニ依リ現金又ハ有價證券等受渡ノ證明ニ供スル爲メ豫メ其廳及取扱主任官ノ印鑑ヲ金庫ヘ送付スヘシ廳印ノ更改主任官ノ改印又ハ主任官變更ノ場合ニ於テモ亦同シ

有價證券ニ屬スル利札交付ノトキ其受渡ヲ證明スル爲メ權利者ハ有價證券寄托ノ際印鑑ヲ金庫ヘ差出シ置クヘシ

第十六條 權利者ニ於テ其寄托シタル現金又ハ有價證券ノ拂戻ヲ受ケントスルトキハ取扱官廳ノ裏書ヲ爲シタル保管證書ヲ得テ金庫ヘ差出シ之カ拂戻ヲ請求スヘシ

第十一條 取扱官廳ノ裏書アル保管證書ヲ以テ現金又ハ有價證券ノ拂戻ヲ請求スル者アルトキハ金庫ハ取扱官廳及主任官ノ印鑑ニ照合シ相違ナキモノハ之ト引換ニ現金又ハ證券ヲ交付スヘシ

第十二條 權利者ニ於テ官廳ヨリ寄托シタル現金又ハ有價證券ノ拂戻ヲ受ケントスルトキハ其事由ヲ具シ其取扱官廳ニ請求スヘシ

取扱官廳ニ於テ前項ノ請求ヲ審査シ相當ト認ムルトキハ金庫ニ宛タル第六號書式ノ拂渡證書ヲ製シ之ヲ權利者ヘ交付スヘシ

權利者ニ於テ前項ノ拂渡證書ヲ受ケタルトキハ之ヲ金庫ヘ差出シ現金又ハ證券ノ拂渡ヲ受クヘシ

第十三條 金庫ハ前條ノ拂渡書ヲ以テ現金又ハ有價證券ノ拂渡ヲ請求スル者アルトキハ取扱官廳及主任官ノ印鑑ニ照合シ相違ナキモノハ之ト引換ニ現金又ハ證券ヲ交付スヘシ

第十四條 政府ノ所有ニ歸シタル保管金ハ左ノ手續ニ依リ取扱フヘシ

一 保管證書ヲ發シタルモノハ取扱官廳ニ於テ該證書ノ裏面ニ事由ヲ記載シ收入官吏ヲシテハ入トシテ金庫ヘ納付セシムヘシ

一 保管證書ヲ發セサルモノハ大藏大臣ノ令達ニ依リ金庫ニ於テ歳入ヘ編入スヘシ

第十五條 取扱官廳ニ於テ保管金ノ幾分ヲ歳入ト爲シ又ハ幾分ヲ權利者ニ拂戻スコトヲ要スルトキハ保管證書ニ事由書ヲ付シ保管證書ノ分割ヲ金庫ニ請求スヘシ

第十六條 金庫ニ於テ前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ新ニ保管證書ヲ製シ舊保管證書ト交換スヘシ

第十七條 保管金ノ利子ハ毎年三月三十一日ヲ期トシ之カ計算ヲ爲スヘシ又元金悉皆拂戻ニ對スル利子ハ其元金拂戻シタルトキ計算ヲ爲スヘシ



權利者ニ於テ保管金利息拂渡ヲ請求スルトキハ第七號書式ノ請求書ヲ取扱金庫へ差出スヘシ  
金庫ハ式ノ如ク利息金額ヲ記入證明シ之ヲ大藏大臣へ進達スヘシ

第十八條 金庫ニ於テ前條第二項ノ請求書ヲ受ケタルトキハ利息金額ヲ算出シ式ノ如ク之ヲ記入證明シ日本銀行又ハ其支店代理店へ之ヲ回付スヘシ

日本銀行又ハ其支店代理店ニ於テ前項ノ請求書ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ利息受取人ヲシテ式ノ如ク受領ヲ證セシメ其現金ヲ交付スヘシ

第十九條 官廳又ハ權利者ニ於テ寄托シタル有價證券ニ屬スル利子ノ渡期ニ至リ之カ利札ノ交付ヲ受ケントスルトキハ第十號書式ノ領收證書ヲ金庫へ差出スヘシ

金庫ハ前項ノ領收證書ト引換ニ利札ヲ交付スヘシ

第二十條 保管證書又ハ領收證書ヲ亡失シタルカ爲メ官廳又ハ權利者ヨリ保管ノ證明方ヲ金庫ニ請求スルトキハ金庫ニ於テハ第十一號書式ノ證明書ヲ製シ之ヲ官廳又ハ權利者へ交付スヘシ

保管證書及ヒ領收證書ヲ汚染毀傷シ證書ノ要點ヲ見認メ難キニ至リタルカ爲メ官廳又ハ權利者ヨリ之カ引換ヲ金庫ニ請求スルトキハ金庫ハ更ニ保管證書又ハ領收證書ヲ製シ舊證書ト交換スヘシ

第廿一條 官廳ニ於テ金庫へ寄托シタル保管金ニシテ權利移轉又ハ其他ノ事故ノ爲メ其送付書

ニ記載シタル期滿失効ノ年月日(本文期滿失効ノ年月日トハ各其據ルヘキニ變更ヲ生スルトキハ即日法律規則ニヨリ算出シタルモノヲ云フ)其旨ヲ金庫へ通知スヘシ

前項保管金ニシテ權利者自カラ權利ヲ拋棄シ又ハ其他事故ノ爲メ保管ノ必要ナク歳入ニ編入スヘキモノハ其旨ヲ金庫へ通知スヘシ

附 則

第廿二條 前條保管金ニシテ本令發布以前既ニ其送付書ニ記載シタル期滿失効ノ年月日ニ變更ヲ生シタルモノハ明治廿七年二月廿八日迄ニ當該官廳ヨリ其旨ヲ金庫へ通知スヘシ

第二十三條 金庫ニ於テ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ調査シ全ク期滿失効トナリタルモノハ計算書ヲ作り明治廿七年三月三十一日迄ニ當該官廳ニ送付シ其證明ニ受ケ之ヲ整理スヘシ(書式略ス)

○大藏省訓令第五十四號 明治二十三年四月一日

第一條 出納官吏交替ノトキハ前任出納官吏ニ於テ引繼ヘキ帳簿證憑書其他書類ノ目錄一通ヲ作り後任出納官吏立會ノ上ニテ現物ニ照シ受授ヲシタル後チ目錄ニ年月日及無相違受授丁シタル旨ヲ記入シ兩出納官吏ニ於テ署名捺印シ各一通ヲ所持スヘシ

第二條 出納官吏ニ於テ備フル所ノ帳簿ハ引繼ノ日ニ於テ最終記帳ノ下ニ單線ヲ書シ合計高ヲ記載シ其下ニ二線ヲ畫シ其次ニ年月日ヲ記入シ前任出納官吏及後任出納官吏署名捺印スヘシ



第三條 會計規則ニ依リ收入官吏ニ於テ調製スル所ノ毎月收入報告書ハ後任出納官吏之ヲ調製スヘシ

第四條 削除

第五條 收入官吏交替ノトキハ前任收入官吏ニ於テ第二號書式ノ收入計算書二通ヲ調製シ收入未済額ノ後任收入官吏ニ入引繼ヘシ

第六條 現金ヲ領收スル收入官吏現金前渡ヲ受ケタル官吏及政府ニ屬スル歳入歳出外ノ現金ヲ取扱フ出納官吏交替ノトキハ前任出納官吏ニ於テ現在保管ノ金額及金種類ヲ示ス所ノ第三號書式計算書ヲ作り現金出納簿ト對照シ保管金ヲ後任出納官吏ニ引繼ヘシ

第七條 後任出納官吏第五條及第六條ノ引繼ヲ受ケタルトキハ收入計算書保管金現在高計算書ニ式ノ如ク記入捺印シ其一通ヲ前任出納官吏ニ交付スヘシ

第八條 二十二年大藏省令第十三號第一章ニ依リ出納官吏ヨリ金庫ニ委托シタル現金ハ前任出納官吏ヨリ後任出納官吏ニ引繼キ後任出納官吏ハ同省令第二條ニ依リ印鑑ヲ金庫ニ送付スヘシ

第九條 削除  
(別紙零ス)

○大藏省訓令第百二十四號 明治二十三年十月十日

返納人爲替納金ノ請求ヲ爲シタルトキ取扱順序

大藏省所管 歳入徴收官  
大藏省所管 仕拂命令官  
收入官吏 金庫出納役

國庫ヘノ納金ニシテ其納人ヨリ甲地ノ金庫又ハ收入官吏ヘ納付スヘキモノヲ乙地ノ金庫ヘ爲替納ノ請求ヲナシタルトキハ左ノ順序ニ據リ取扱フヘシ  
爲替納金取扱順序

第一條 甲地ノ金庫ヘ納付スヘキ歳入金若クハ其他ノ納金ヲ其納人ヨリ現金ニ第一號書式ノ爲替納金請求書ヲ添ヘ乙地ノ金庫ヘ差出シタルトキハ乙地ノ金庫ニ於テハ之ヲ爲替納金トシテ領收ヲナスヘシ(爲替納金請求書ノ用紙)

甲地ノ官廳ニ在勤スル收入官吏ヘ納付スヘキ金額ヲ其納人ヨリ乙地ノ金庫ヘ差出ストキモ亦總テ前項ニ據リ取扱フヘシ(納金スヘキ金庫即チ甲地ノ金庫名ハ本年大藏省訓令第百三十五號第三項ニ依リ收入官吏ヨリ納人ヘ通知ノ管ナリ)

第二條 乙地ノ金庫(支金)ニ於テ納人ヨリ爲替納金ヲ領收シタルトキハ第二號書式ノ爲替納金領收證書ヲ調製シテ納人ヘ交付スヘシ(納人ハ本文ノ爲替納金領收證書ヲ得テ之ヲ甲地ノ金庫又ハ收入官吏ヘ納付ノ順序ヲナスモノトス)

第三條 乙地ノ金庫ニ於テ第二條ニ據リ甲地ノ金庫ヘ爲替納金ヲ領收シタルトキハ現金出納原簿上雜部科目ヲ以テ整理シ雜部金内譯簿中ヘ特ニ爲替納金ノ口座ヲ設置(支金庫ニ於テ領收シタル爲替納金ニシテ本金)



庫へシ報告翌月ニ涉リ當該月ノ記帳ニナシキモノアル金庫ニ於テハ明治二十六年大藏省訓令第三十九號附シ之レカ  
 第九號書式ニ準シ其口坐ヲ月別ニ設ケルコトヲ得此場合ニ於テハ貸借殘額トモ翌月ニ繰越スヘキモノトス  
 受入ノ記帳ヲナスヘシ  
 (本文内譯漢ハ其日ノ收支簿高ヲ以テ記入シ其證憑ハ日毎ニ取極メ日計書ヲ添付シ又提出  
 ノト) 前項雜部金受人ノ場合ニ於テハ收支金報告表(他ノ雜部金中)ニ該部員額ヲ記載スヘシ

第四條 乙地ノ支金庫ニ於テ爲替納金ヲ領收シタルトキハ現金受拂簿中爲替現金ノ科目ヲ設ク  
 之レカ受入ノ記帳ヲナスヘシ  
 前項爲換納金ヲ領收シタルトキハ毎日第三號書式ノ爲替納金報告書ヲ調製シ之レニ爲替納金  
 請求書及爲替納金領收證書原符ヲ添ヘ其支金庫ヲ總轉スル所ノ中央金庫又ハ本金庫ヘ送付ス  
 ヘシ

爲替納金ヲ領收シタル支金庫ヲ總轉スル所ノ中央金庫又ハ本金庫ニ於テ前項ノ報告ヲ受ケタ  
 ルトキハ總テ納入ヨリ直按ニ領收シタルモノト等シク第三條(中央金庫本金庫トモ雜部内譯漢摘要ニ)  
 ノ手續ヲナスヘシ

第五條 甲地ノ金庫(支金庫)ニ於テ乙地ノ金庫ヨリ發行シタル爲替納金領收證書ニ納額告知書(既  
 令書納入告知書)拂込書返納告知書若クハ其納金ニ要スル書面ヲ添ヘ納入ヨリ納付シタルトキハ之  
 ヲ領收スヘシ

支金庫ニ於テ領收シタル爲替納金領收證書ハ毎日之レヲ其支金庫ヲ總轉スル所ノ中央金庫又  
 ハ本金庫ヘ迴送トシテ拂出シ送付スヘシ

第六條 甲地ノ金庫(中央金庫又ハ本金庫)ニ於テ領收シタル爲替納金領收證書(其支金庫ニ於テ領  
 收シタル分トモ)ハ現金科目  
 ヲ用ヒス直ニ乙地ノ金庫(中央金庫又ハ本金庫)ヘ迴送トシテ拂出スヘシ

第七條 乙地ノ金庫ニ於テ第六條ニ據リ甲地ノ金庫ヨリ迴送トシテ爲替納金領收證書ヲ領收シ  
 タルトキハ彙ニ受入アル雜部(爲替納金)ヲ拂出シ更ニ迴送受入ノ記帳ヲ爲スヘシ  
 前項雜部金拂出ノ場合ニ於テハ收支金報告表(他ノ雜部金中)ニ該員額ヲ記載スヘシ

第八條 第一條ニ據リ納入ヨリ乙地ノ金庫(支金庫)ヘ現金ヲ爲替納ニナシタル後若シ事故アリテ  
 下戻ヲ要スルトキハ歳入金其他納金ヲ取扱フヘキ收入官吏ヨリ乙地ノ金庫ヘ下戻ノ通知書ヲ  
 發スヘシ

乙地ノ金庫(支金庫)ニ於テ最初交付シ置キタル爲替納金領收證書ヲ以テ納入ヨリ下戻ノ請求ヲ  
 受ケタルトキハ前項通知書ニ對查シ該爲替納金領收證書裏面ニ現金領收ノ旨ヲ記載署名捺印  
 ヲナサシメ其領收證書ト引替ニ現金ヲ交付スヘシ

第九條 乙地ノ金庫(中央金庫又ハ本金庫)ニ於テ第八條第二項ニ據リ爲替納金ヲ下戻シタルトキハ彙ニ受  
 入アル雜部(爲替納金)拂出ノ記帳(支金庫ニ於テ下戻シタル爲替納金ニシテ本金庫ヘノ報告翌月ニ涉リ當該月  
 附屬第九號書式ニ準シ其口坐ヲ月別ニ設ケルコトヲ得此)ヲナスヘシ  
 (附屬第九號書式ニ準シ其口坐ヲ月別ニ設ケルコトヲ得此)ヲナスヘシ

乙地ノ支金庫ニ於テ前項同様下戻シタルトキハ爲替納金下戻トシテ拂出シ毎日第五號書式ノ  
 爲替納金下戻報告書ヲ調製シ之レニ爲替納金領收證書及官廳ヨリノ通知書ヲ添ヘ其支金庫



ヲ總轉スル所ノ中央金庫又ハ本金庫ヘ送付スヘシ  
本條下段ノ場合ニ於テハ收支金報告表(他ノ雜部金中)ハ該員額ヲ記載スヘシ

第十條 乙地ノ金庫(中央金庫又ハ本金庫)ニ於テ毎月第六號書式ノ雜部金月計對照表ヲ調製シ之ニ爲替納金請求書及廻送金ヘ振替濟又ハ現金下戻濟ノ爲換納金領收證書(下戻通)ヲ添ヘ翌月五日迄ニ大藏大臣指定ノ官吏ヘ送付シ之レカ證明ヲ受ケ其證書ト共ニ還付ヲ受クヘシ

第十一條 第十條ニ據リ調製スヘキ雜部金月計對照表ヘハ直接ニ取扱ヲナシタル爲替納金ノ收支額ヲ記入スルハ勿論又其金庫ニ屬スル支金庫ニ於テ當該月中ニ收支ヲ爲シタル爲替納金ヲモ總テ併算記入スヘシ(支金庫ニ於テ收支ヲナシタル爲替納金ヲ併算スルモノハ第四條及ヒ第九條ノ如ク支金庫ノ分ハ總テ中央金庫又ハ本金庫ニ於テ計算整理スルカ爲メニ依ル)

第十二條 證明官吏ニ於テ第十條ノ雜部月計對照表ニ照憑書ヲ添ヘ送付ヲ受ケタルトキハ該表中受入ノ部ハ爲替納金請求書ニ拂出ノ部ハ爲替納金領收證書ニ對照シ式ノ如ク證明シ日證書書ニ檢印ヲ捺捺シ三日以内ニ各證書ト共ニ金庫ヘ返付スヘシ

但對查上相違アルコトヲ發見シタルトキハ其理由ヲ付記シ三日以内ニ返付スヘシ  
第十三條 毎年度出納計算書毎月出納内譯書及出納計算書ハ受拂ノ部雜部中ヘ特ニ爲替納金ノ一項ヲ設ケ其爲替納金ニ係ル收支額ヲ記入スヘシ  
(書式ヲ略ス)

○大藏省訓令第十四號 明治二十五年三月二十五日

出納官吏

明治二十二年大藏省令第十三號第一章ニ依リ現金ヲ金庫ニ委託シタル出納官吏ニシテ交替ヲナシタル場合ハ金庫ニ於テ月計對照表差出方ノ都合有之ニ付其旨速ニ當該金庫ヘ通知スヘシ

出納官吏

○大藏省訓令第十一號 明治廿六年三月廿三日  
出納官吏身元保證金ヲ納付スヘキ義務アルハ明治二十二年法律第四號會計法第二十八條及明治二十三年勅令第四號第一條ニ依リ其取扱金額一箇年五百以上又ハ當時保管スル物品ノ價格千圓以上ニ達スルモノハ同號第二條ニ依リ就職ノ時即納スヘク又追納増納ノ場合ニ於テハ明治二十三年勅令第六十號會計規則第八條第九條ニ依リ一定ノ期限内ニ納付スヘキ筋ナルニ付萬一脱漏アルニ於テハ出納官吏ノ職務ヲ執ルヲ得サル儀ニシテ知ラス違法ノ所爲ニ陷ルルコトモ可有之就テハ各出納官吏現金取扱額及物品保管價格ノ概定高ハ本屬大臣ニ於テ指定ノ上身元保證金納付義務ノ有無通達アルヘキ管ナレトモ尙ホ各自ニ於テモ其算出方等左ノ通相心得不都合無之様注意致スヘシ

一 明治二十三年勅令第四號第一條ノ取扱金額ハ現金出納簿ノ受入高ニ依リ算出シ又物品ノ價格ハ物品出納簿受入高ヨリ拂出ノ高ヲ差引タル一箇年間毎月末ノ平均殘高ニ依リ算出スヘシ  
一 明治廿三年勅令第四號第一條ノ現金ノ領收ヲ常職トスル官吏トハ或ル特定事件ノ爲メニ一時



限リ現金領收ヲ命セラレタル者ヲ除キ總テ現金ノ領收ヲ爲スヘキ資格アル者ハ平常現金ノ領收アルト否トニ拘ハラズ總テ包含シ又當時現金前渡ヲ受クル官吏トハ常ニ現金前渡ヲ受ケ居ル者ヲ云ヒ臨時命ヲ受クル者ヲ包含セス

一出納官吏數職ヲ兼務シ各職毎ニ區分シテ身元保證金ヲ納ムルハ出納簿ノ補助簿ニ依リ算出シ若シ補助簿ノ設ケナキトキハ出納簿ニ依リ種類ヲ區分シテ算出スヘシ

一明治二十三年勅令第五十三號官立學校及圖書館會計規則第二十條條第三項ニ依リ現金前渡ヲ受クル官吏ハ其取扱金額一箇年五百圓未滿ト雖トモ身元保證金納付ノ義務アリ

○大藏省訓令第四十五號 明治三十三年五月二日

歲入徵收官交替ノトキ取扱方

大藏省所管歲入徵收官

金庫 出納 役

一歲入徵收官交替ノトキハ直ニ關係ノ各金庫ヘ其旨ヲ通知スヘシ

一金庫ニ於テ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ帳簿上前任歲入徵收官氏名ノ上ニ何年何月何日交替ニ據リ後任何官何某ニ改ムト記入スヘシ(前任官官氏名ハ陰抹スヘカラス)

一歲入金月計對照表ハ歲入徵收官ノ前任後任ヲ區別セス總テ後任官ノ計算ニ組込調製スヘシ

○會計検査院達第二號 明治二十四年三月九日

歲入歲出外現金出納證明規程

第一條 明治二十三年勅令第三十五號ニ據リ出納官吏ノ證明スヘキ歲入歲出外現金出納計算書ハ左ノ書式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二條 出納證明上證憑書類トシテ提出スヘキモノ左ノ如シ

一 受入金ニ對シテ命令書又ハ決議書

二 仕拂金ニ對シテハ正當受取人ノ領收證書

第三條 前條ノ證憑書類ハ受入仕拂ニ大別シ計算書ニ掲クル事項毎ニ區分編纂シ其表紙ニ金額ノ合計及ヒ證憑書ノ枚數ヲ記載スヘシ但一事項ノ證書僅少ナルモノハ合纂スルモ妨ナシ

第四條 下検査官吏ハ計算書及ヒ證憑書類ノ下検査ヲ完了シ翌年度六月二十五日以内ニ其廳ヲ發シ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第五條 下検査書ハ計算書毎ニ區分調製シ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 計算書及證憑書類ノ件名冊數

二 現金出納計算書ト出納帳簿及計算書ノ殘額ト現存額トノ符合ヲ認メタル保證但シ當該下検査官吏ニテ事實執行シ難キ場合ニ於テハ他ノ監督ノ任アル官吏ノ保證書ヲ以テスルコトヲ得

三 削除

四 事實ニ適合セスト認定セシ事項ノ理由及ヒ金額



第六條

證憑書類中必要ノモノニシテ検査終了ノ上返付ヲ要スルモノナルトキハ其提出ノ際之ヲ會計検査院ニ請求スヘシ

第七條 歳入歳出外現金出納ノ證明ニ關スル審理書又ハ其報告書ハ總テ下検査官吏ヲ經由スヘシ  
(書式略ス)

○會計検査院達第二號 明治二十八年六月十七日

物品出納證明規程

第一條 物品會計規則第十五條ニ據リ物品會計官吏ノ證明スヘキ物品出務計算書ハ別記書式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二條 物品出納計算書ニハ器具、器械、備品、消耗品、動物其他物品ノ種類若クハ所用ノ目的ニ依リ適宜類別シテ毎品之ヲ列記スヘシ但同名稱ノ品種ハ之ヲ集合スルモ妨ケナシ

第三條 物品出納證明上證憑書類トシテ提出スヘキモノ左ノ如シ但一項乃至三項ハ監督ノ任アル官吏ノ保證書ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得

一 物品會計規則第六條ノ規定ニ據リタル命令書

二 消耗拂及生産ノ爲メ拂出ノ物品ニ對シテハ各其領收證書

三 保管轉換ノ爲メ仕拂ノ物品ニ對シテハ當該官吏ノ領收證書

四 賣拂品ニ對シテハ品質、數量、代價、賣拂ノ年月日及其事由ヲ詳記シタル證明書又ハ決議書

書

五 亡失毀損ノ物品ニ對シテハ當該上官ノ認定アル品質、數量、價格及其亡失毀損ニ係ル事實ヲ詳記シタル證明書其辨賞ニ係ルモノハ尙其物品ノ數量及辨賞金額ノ仕譯書

六 贈與拂ヲ物品ニ對シテハ其事由ヲ詳記シタル證明書又ハ決議書

第四條 前條ノ證憑書類ハ受拂ニ大別シ計算書ニ掲クル品目毎ニ其區畫ノ順次ニ依リ之ヲ編纂シ其表紙ニ數量ノ合計及證憑書ノ枚數ヲ記載スヘシ但一品目ノ證憑書僅少ナルモノハ計算書ニ掲クル品目ノ順次ニ從ヒ合纂スルモ妨ケナシ一證憑書中數種ノ品目混合セルモノアルトキハ別冊ニ編纂シ其表紙ニ品目ノ數量合計ヲ記載スヘシ

第五條 左ノ事項ハ計算書ノ備考ニ記載スヘシ

一 證憑書類中他ノ計算證明上提出濟ノモノアルトキハ其事由

二 現在品ノ内地遞送中ノモノアルトキハ其數量及事由

第六條 常時出納ヲナサ、ル倉庫若クハ貯藏所ノ物品ニシテ物品會計規則第十八條ニ據リ調査ヲ以テ證明スル場合ニ於テ前回ノ證明高ニ對シ増減異動アルモノハ其仕譯書ヲ添付スヘシ但其證憑書類ハ前各條ノ例ニ依ル

第七條 下検査官吏ハ計算書類ノ下検査ヲ完了シ翌年度八月三十一日迄ニ其應ヲ發シ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ



第八條 下検査書ハ計算書毎ニ區分調製シ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 計算書其他證憑書類ノ件名册數

二 計算書ト物品出納簿トノ符合及其現在品ヲ認メタル保證但當該下検査官吏ニテ事實執行シ

難キ場合ニ於テハ他ノ監督ノ任アル官吏ノ保證書ヲ以テスルコトヲ得

三 事實ニ適合セスト認定シ事項ノ理由

第九條 物品出納ノ證明ニ關スル審理書及之ニ對スル報告書ハ總テ下検査官吏ヲ經由スヘシ

第十條 一應ニ限り又ハ物品ノ種類ニ依リ特ニ要スル證明ノ規程ハ別ニ之ヲ定ム

附 則

第十一條 本規程ハ明治二十八年ヨリ施行ス

(別記書式略ス)

○會計検査院達第二號 明治卅二年五月十三日

仕拂證明規程

第一條 會計規則又ハ各特別會計規則ニ依リ現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ調製スヘキ仕拂計算書

ハ別記書式ニ據ルヘシ

第二條 左ノ事項ハ仕拂計算書ノ備考ニ記載スヘシ但事ノ複雜ニ涉ルモノハ説明書ハ添付スヘシ

一 科目更正ヲ爲スヘキモノ又ハ爲シタルモノアルトキハ其金額事由

二 誤拂過渡ニシテ其處分ヲ爲スヘキモノ又ハ爲シタルモノアルトキハ其金額事由

三 過年度ニ屬スル經費ノ仕拂ヲ爲シタルモノアルトキハ其金額事由

四 缺損補填ヲ受ケタルモノアルトキハ其金額事由

五 會計規則第八十八條ニ依リ辨償ヲ命セラレタルモノアルトキハ其金額事由

六 他ノ出納官吏ト現金ノ受授ヲ爲シタルモノアルトキハ其金額事由

七 領收證書ノ未到達ニ係ルモノアルトキハ其金額

八 金庫ニ義務委託ヲ爲シタル金額並拂込月日其月末殘額

第三條 最終仕拂計算書提出ノ際概算渡ノ精算ニ至ラサルモノ前金拂ニ係ル製造又ハ物件ノ購

買ニシテ其事ノ完了ニ至ラサルモノ領收證書ノ到達セサルモノ仕拂殘額ノ返納ヲ了セサルモ

ノ及誤拂過渡科目違ノ處分未済ニ係ルモノアルトキハ其事由及完結期限ヲ記載シタル調査ヲ

添付スヘシ

最終仕拂計算書提出ノ後誤拂過渡科目違ヲ發見シタルトキハ其都度之ヲ報告スヘシ

前二項ノ各事項ハ處分完結ニ隨ヒ其證憑書ヲ添ヘ之ヲ報告スヘシ

第四條 仕拂ノ證憑トシテ提出スヘキモノハ正當受取人ノ領收證書工事又ハ物件ノ購買借入ニ

關スル契約書其他仕拂ノ所由並計算ノ基ク所ヲ證明スヘキ書類トス但事ノ複雜ニ涉ルモノハ



明細書若クハ説明書ヲ添付シ又臨時特殊ニ係ル事項ハ當該長官ノ命令書若クハ決議書等ヲ添付スヘシ

正當受取人ノ領收證書ヲ得難キ場合ニ在リテハ其事由ヲ付記シタル仕拂書ニ當該上官ノ認定ヲ受ク之ヲ提出スヘシ

領收證書及仕拂書ニハ番號ヲ付スヘシ

第五條 證憑書ハ原本ニ限ル若シ原本ヲ提出シ難キ場合ニ在リテハ當該官吏ノ保證アル謄本ニ其事由ヲ付記シ之ヲ提出スヘシ

外國語ヲ以テ記載シタル證憑書ニハ其譯文ヲ付スヘシ

第六條 俸給其他一定ノ給與ニシテ其給額ニ異動ヲ生シタルモノアルトキハ其事由及年月日ヲ證憑書ニ付記スヘシ

文官ノ新任者再任者轉任者ニ係ル俸給又ハ退官賜金ノ證憑書ニハ其履歷書新任者ニ對シテハ其任官資格ヲ認ムハキ書類ヲ添付スヘシ俸給其他ノ支給ニシテ其規定ノ期限ニ依ラサルモノアルトキハ其事由ヲ證憑書ニ付記シ轉任退官死亡等ニ由リ支給ヲ止メタルモノアルトキハ之ヲ報告スヘシ

第七條 旅費ノ領收證書若クハ精算證書ニハ其用務及旅行ノ日數年月日里程宿泊場所ヲ詳記シタル明細書ヲ添付スヘシ但領收證書又ハ精算證書ニ付記シテ明細書ヲ省クコトヲ得

旅行中迂路ヲ經過セシモノ又ハ病氣滯在其他ノ事故ニ由リ特ニ日數ヲ要シタルモノ若クハ旅費ノ實費拂又ハ割増ヲ爲シタルモノアルトキハ當該上官ノ認許書ヲ提出スヘシ

第八條 競争契約ニ依リタル五百圓以上ノ工事及物件ノ購買借入ニ關スル證憑書ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ

- 一 工事又ハ物件ノ購買借入ニ關スル決議書類
- 二 會計規則第七十四條ニ基キタル公告書但其公告方法ヲ付記スヘシ
- 三 豫定價格調書其算出ノ基ク所ヲ示スヘシ
- 四 一番札ヨリ五番札ニ至ル入札書

競争ノ落札者請負又ハ購買借入ノ契約ヲ結ハスシテ更ニ競争ヲ行ヒタル場合ニ在リテハ尙前同ノ競争ニ關スル前項ノ書類ヲ其證憑書ニ添付スヘシ

第九條 隨意契約ニ依リタル五百圓以上ノ工事及物件ノ購買借入ニ關スル證憑書ニハ其決議書類及競争契約ニ依ラサリシ理由ヲ詳記シタル説明書ヲ添付スヘシ

工事又ハ物件ノ購買借入ニシテ競争ニ付スルモ入札者ナキトキ又ハ再度ノ入札ニ付スルモ豫定價格ノ制限ニ達セスシテ隨意契約ヲ爲シタルモノハ其事由ヲ付記シ第八條ニ規定シタル書類ヲ提出スヘシ

第十條 五百圓以上ノ工事及物件ノ購買借入ニ關スル契約ニシテ其締結後變更解除又ハ違約處



分チ爲シタルモノハ決議書及其關係書類ヲ證憑書ニ添付スヘシ

第十一條 五百圓以上ノ工事ニ關スル證憑書ニハ會計規則第六十七條第一項ニ依リ監督官吏若クハ技術者ノ作リタル調査ヲ添付スヘシ

工事ノ既濟部分又ハ物品ノ既納部分ニ對シ完濟前ニ代價ノ一部分ヲ仕拂ヒタルモノハ其證憑ニ會計規則第六十七條第二項ニ依リ検査官吏ノ作リタル調査ヲ添付スヘシ

第十二條 總價格千圓以上ノ直營事業ニ關スル最初仕拂ノ證憑書ニハ其設計書仕譯書設計圖面及其附屬書類ヲ添付スヘシ但繼續事業ニシテ特ニ毎年度設計書ヲ調製スルモノハ其年度最初仕拂ノ證憑書ニ之ヲ添付スヘシ

事業竣功シタルトキハ竣功明細書ヲ調製シテ其最終仕拂ノ證憑書ニ添付シ若シ設計ヲ變更シタルトキハ其變更設計書類ヲ添付スヘシ但繼續事業ニ係ルトキハ當該年度内ニ於ケル既濟ノ部分ニ就テ竣功明細書ヲ調製スヘシ

竣功明細書ノ様式ハ別ニ之ヲ定ム

第十三條 工事ニ其工費豫算ヨリ代價ヲ支辨セシテ物品又ハ勞力ヲ使用シタルトキハ其種類及見積價格ヲ記載シタル明細書ヲ添付スヘシ但證憑書ニ付記シテ明細書ヲ省クコトヲ得

第十四條 物件ノ購買又ハ賠償ニ關スル證憑書ニハ其名稱種類品數量及單價ヲ明示シ該物件所要ノ目的ヲ付記スヘシ

前項ノ證憑書ニハ官有財産簿又ハ物品出納簿ニ登記濟ノ年月日ヲ記載スヘシ但前金拂ニ係ルモノハ其事由ヲ付記スヘシ

第十五條 前渡金ヲ外國貨幣ニテ受入レタルモノ若クハ外國貨幣ニ交換シタルモノハ其爲替相場ヲ證明スヘキ書類ヲ提出スヘシ

第十六條 返納金ヲ金庫ニ拂込ミタルモノハ金庫ノ領收證書誤拂過渡其他ノ返納金ヲ受取人ヨリ歳入ニ納付セシメタルモノハ歳入ノ徵收ヲ監スル官吏若クハ當該金庫ノ保證書ヲ提出スヘシ

官吏遺族扶助法納金ヲ收入官吏ニ拂込ミタルモノハ當該收入官吏ノ領收證書ヲ提出スヘシ

第十七條 證憑書ハ豫算各目ニ區分編纂シテ其金額紙數ヲ表紙ニ記載シ概算渡ニ係ルモノ及領收證書ノ未到達ニ係ルモノアルトキハ其金額ヲ付記スヘシ但分任納官吏ノ取扱ニ係ル證憑書ハ之ヲ區分編纂シ其金額及官氏名ヲ表紙ニ記載スヘシ

未到達ニ係ル領收證書ノ到達シタルモノハ仕拂ノ月ヲ以テ區分スヘシ

證憑書類ノ編纂ニ關シ特ニ區分ヲ要スルモノハ別ニ之ヲ指定ス

第十八條 下検査ヲ執行スル官吏ニ於テ仕拂計算書及證憑書ヲ受クタルトキハ十五日以内ニ下検査ヲ執行シ之ヲ提出スヘシ

第十九條 下検査書ハ仕拂計算毎ニ調製シ左ノ事項ヲ記載スヘシ



一 仕拂計算書ト現金出納簿トノ符合及殘額現存ノ保證

二 事實ニ適合セスト認定シタル事項ノ金額事由

第二十条 審理書及答辨書ハ下検査ヲ執行スル官吏ヲ經由スヘシ

附 則

第二十一条 本規程ハ明治三十二年度ヨリ施行ス現金前渡金仕拂證明規程及明治二十七年會計

検査院達第七號ハ明治三十一年度限ト廢止ス

(別紙書式略ス)

○會計検査院達第一號 明治三十二年五月十一日

支出證明規程

第一條 會計規則又ハ各特別會計規則ニ依リ仕拂命令官又ハ作業事務長作業支部局長學校長圖書館長若クハ其支部長ノ調製スヘキ支出計算書ハ別記書式ニ據ルヘシ

第二條 左ノ事項ハ支出計算書ノ備考ニ記載スヘシ但事ノ複雜ニ涉ルモノハ説明書ヲ添付スヘシ

一 科目更正若クハ定額戻入ヲ爲スヘキモノアルトキハ其金額事由

二 誤拂過渡其他ノ返納ニ由リ歳入ニ租入ルヘキモノアルトキハ其金額事由

三 缺損補填ヲ受ケタルモノアルトキハ其金額事由

第三條 最終支出計算書ニハ豫算各目増減事由明細書及年度末日現在人員部局別官等俸給明細書ヲ添付スヘシ

作業事務長ノ最終支出計算書ニハ第一項明細書ノ外左ノ書類ヲ添付スヘシ

一 受拂勘定表但物品會計官吏毎ニ區分シタル各種物品價格受拂仕譯書ヲ要ス

二 年度末日計算表

三 固定資本價格増減明細書並其評價書類及鐵道修理費調書

四 材料素品機械運轉用品生産品又ハ造船材料鐵道用品ニシテ年度末ニ於テ其價格ヲ改定シタルモノアルトキハ每件其事由及市價又ハ生産品調書

五 支出未済ニシテ翌年度ニ繰越シタルモノアルトキハ每件其金額事由明細書

六 代價收入済ニシテ物品未済ニ係ルモノアルトキハ每件其金額事由明細書

學校長又ハ圖書館長ノ最終支出計算書ニハ第一項明細書ノ外左ノ書類ヲ添付スヘシ

一 維持資金及特別資金明細書

二 支出未済支出殘額又ハ仕拂未済ニシテ翌年度ニ繰越シタルモノアルトキハ每件其金額事由明細書

三 歳入殘餘ニシテ維持資金若クハ特別資金ニ租入レタルモノアルトキハ其金額調書

第四條 最終支出計算書提出ノ際概算渡現金前渡ノ精算ニ至ラサルモノ前金拂ニ係ル製造又ハ



物件ノ購買ニシテ其事ノ完了ニ至ラサルモノ及誤拂過渡科目違ノ處分未済ニ係ルモノアルトキハ其事由及完結期限ヲ記載シタル調書ヲ添付スヘシ  
 最終支出計算書提出ノ後誤拂過渡科目違ヲ發見シタルトキハ其都度之ヲ報告スヘシ  
 前二項ノ各事項ハ處分完結ニ隨ヒ其證憑書ヲ添ヘ之ヲ報告スヘシ  
 第五條 支出ノ證憑トシテ提出スヘキモノハ正當受取人ノ領收證書工事又ハ物件ノ購買借入ニ關スル契約書及請求書其他支出ノ所由並計算ノ基ク所ヲ證明スヘキ書類トス但事ノ復雜ニ涉ルモノハ明細書若クハ説明書ヲ添付シ又臨時特殊ニ係ル事項ハ當該長官ノ命令書若クハ決議書等ヲ添付スヘシ  
 集命仕拂命令及合仕拂請求書及金庫所在地外ニ於テ仕拂ヲ要スヘキ裏書アル仕拂命令仕拂請求書ヲ發シタル場合ニ在リテハ金庫ノ領收證書ヲ提出スヘシ  
 領收證書ニハ仕拂命令又ハ仕拂請求書ノ番號ヲ付記スヘシ  
 第六條 證憑書ハ原本ニ限ル若シ原本ヲ提出シ難キ場合ニ在リテハ當該官吏ノ保證アル謄本ニ其事由ヲ付記シ之ヲ提出スヘシ  
 外國語ヲ以テ記載シタル證憑書ニハ其譯文ヲ付スヘシ  
 第七條 俸給其他一定ノ給與ニシテ其給額ニ異動ヲ生シタルモノアルトキハ其事由及年月日ヲ證憑書ニ付記スヘシ

文官ノ新任者再任者轉任者ニ係ル俸給又ハ退官賜金ノ證憑書ニハ其履歷書新任者ニ對シテハ其任官資格ヲ認ムヘキ書類ヲ添付スヘシ  
 恩賞諸祿ノ繼續支給ニ係ルモノハ其年額及受領者ノ舊官名ヲ示シ又遺族ノ受領ニ係ルモノハ其權利ノ起因ヲ證憑書ニ付記スヘシ  
 俸給其他ノ支給ニシテ其規定ノ期限ニ依ラサルモノアルトキハ其事由ヲ證憑書ニ付記シ轉任退官死亡等ニ依リ支給ヲ止メタルモノアルトキハ之ヲ報告スヘシ  
 第八條 旅費ノ領收證書若クハ精算證書ニハ費用務及旅行ノ日數年月日里程宿泊場所ヲ詳細ニ記シタル明細書ヲ添付スヘシ但領收證書又ハ精算證書ニ付記シテ明細書ヲ省クコトヲ得  
 旅行中迂路ヲ經過セシモノ又ハ病氣滯在其他ノ事故ニ由リ特ニ日數ヲ要シタルモノ若クハ旅費ノ實費拂又ハ割増ヲ爲シタルモノアルトキハ當該上官ノ認許書ヲ提出スヘシ  
 第九條 競争契約ニ依リタル五百圓以上ノ工事及物件ノ購買借入ニ關スル證憑書ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ  
 一 工事又ハ物件ノ購買借入ニ關スル決議書類  
 二 會計規則第七十四條ニ基キタル公告書但其公告方法ヲ付記スヘシ  
 三 豫定價格調書但其算出ノ基ク所ヲ示スヘシ  
 四 一番札ヨリ五番札ニ至ル入札書



競争ノ弊札者請負又ハ購買借入ノ契約ヲ結ハスシテ更ニ競争ヲ行ヒタル場合ニ在リテハ尙前  
回ノ競争ニ關スル前項ノ書類ヲ其證憑書ニ添付スヘシ

第十條 隨意契約ニ依リタル五百圓以上ノ工事及物件ノ購買借入ニ關スル證憑書ニハ其決議書  
類及競争契約ニ依ラザリシ理由ヲ詳細シタル説明書ヲ添付スベシ

工事又ハ物件ノ購買借入ニテ競争ニ付スルモ入札者ナキトキ又ハ再度ノ入札ニ付スルモ豫  
定價格ノ制限ニ達セスシテ隨意契約ヲ爲シタルモノハ其事由ヲ附記シ第九條ニ規定シタル書  
類ヲ提出スヘシ

第十一條 五百圓以上ノ工物件ノ購買借入ニ關スル契約ニシテ其締結後變更解除又ハ違約處  
分ヲ爲シタルモノハ決議書及其關係書類ヲ證憑書ニ添付スヘシ

第十二條 五百圓以上ノ工事ニ關スル證憑書ニハ會計規則第六十七條第一項ニ依リ監督官吏若  
クハ技術者ノ作リタル調査ヲ添付スヘシ

工事ノ既濟部分又ハ物品ノ既納部分ニ對シ完納前ニ代價ノ一部分ヲ仕拂ヒタルモノハ其證憑  
書ニ會計規則第六十七條第二項ニ依リ検査官吏ノ作リタル調査ヲ添付スヘシ

第十三條 總價格千圓以上ノ直營事業ニ關スル最初支出ノ證憑書ニハ其設計書仕譯書設計圖面  
及其附屬書類ヲ添付スヘシ但繼續事業ニシラ特ニ毎年度設計書ヲ調製スルモノハ其年度最初  
支出ノ證憑書ニ之ヲ添付スヘシ

事業竣功シタルトキハ竣功明細書ヲ調製シテ其ノ最終支出ノ證憑書ニ添付シ若シ設計ヲ變更  
シタルトキハ其變更設計書類ヲ添付スヘシ但繼續事業ニ係ルトキハ當該年度内ニ於ケル既濟  
ノ部分ニ就テ竣功明細書ヲ調製スヘシ

第十四條 工事ニ其工費豫算ヨリ代價ヲ支辨セスシテ物品又ハ勞力ヲ使用シタルトキハ其種類  
及見積價格ヲ記載シタル明細書ヲ證憑書ニ添付スベシ但證憑書ニ付記シテ明細書ヲ省クコト  
ヲ得

第十五條 物件ノ購買又ハ賠償ニ關スル證憑書ニハ其名稱種類品位數量及單價ヲ明示シ該物件  
所要ノ目的ヲ付記スヘシ

第十六條 諸拂戻ノ證憑書ニハ其支出ヲ要スル事實ノ生シタル年月日又支出ノ請求ヲ爲シタル  
年月日ヲ付記スヘシ

第十七條 誤拂過渡其他ノ返納ニ由リ歳入ニ納付シタルモノハ歳入ノ徴收ヲ監督スル官吏若ク  
ハ當該金庫ノ保證書ヲ提出スヘシ

第十八條 證憑書ハ豫算各目ニ區分編纂シテ其金額紙數ヲ表紙ニ記載シ概算渡ニ係ルモノナル



トキハ其金額ヲ付記スヘシ但金庫ノ領收證書ニシテ各目ニ區分シ難キモノハ其關係書類ト共ニ各項ニ區分編纂シ各目仕譯書ヲ添付スヘシ  
概算渡ニ對スル精算證書ハ其概算渡ヲ爲シタル月ヲ以テ區分スヘシ  
證書ノ編纂ニ關シ特ニ區分ヲ要スルモノハ別ニ之ヲ指定ス

附 則

第十九條 本規程ハ明治三十二年度ヨリ施行ス

作業及鐵道會計支出證明規程官立學校及圖書館會計支出證明規程鎮守府造船材料資金會計支出證明規程官設鐵道用品資金會計支出證明規程乘煙草專賣資金會計支出證明規程及明治二十七年會計検査院達第二十五號明治三十一年會計検査院達第四號ハ明治三十一年度限り廢止ス  
(別紙書式略ス)

會計検査院達第二號 明治三十三年五月廿九日

收入證明規程

第一條 會計規則又ハ各特別會計規則ニ依リ收入官吏ノ調製スヘキ收入計算書ハ別記書式ニ據ルヘシ

第二條 身元保證金ヲ納メタル分任收入官吏交替ノトキハ特ニ其收入計算書ヲ調製シ證明ヲ爲スコトヲ得但此場合ニ在リテハ主任收入官吏ヲ經由スルシ

第三條 左ノ事項ハ收入計算書ノ備考ニ記載スヘシ

一 缺損補填ヲ受クタルモノアルトキハ其金額事由

二 會計規則第八十八條ニ依リ辨償ヲ命セラレタルモノアルトキハ其金額事由

三 金庫ニ拂込未済又ハ債主其他ニ拂渡未済ニ係ルモノアルトキハ其金額事由

四 右金額ニシテ後任官吏ニ引繼キタルモノアルトキハ其事由

第四條 收入計算書ニハ會計規則第九十三條ニ依レル檢定書ヲ添付スヘシ

第五條 證書トシテ提出スベキ書類左ノ如シ

一 金庫ニ拂込ミタルモノ後任官吏ニ引繼キタルモノ又ハ債主其他ニ拂渡シタルモノハ各其領收證書

二 金庫ニ寄託シタルモノ又ハ供託シタルモノハ當該上官又ハ金庫ノ保證書

第六條 證書書類ハ所屬年度ニ區分編纂シ其金額紙數ヲ表紙ニ記載スヘシ

第七條 下検査ヲ執行スル官吏ニ於テ收入計算書及證書書類ヲ受クタルトキハ十五日以内ニ下検査ヲ執行シ之ヲ提出スヘシ

第八條 下検査書ハ收入計算書ニ調製シ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 收入計算書ト現金出納簿トノ符合及殘額現存ノ保證

二 事實ニ適合セスト認定シタル事項ノ金額事由



第九條 審理書及答辨書ハ下検査ヲ執行スル官吏ヲ經由スヘシ

附 則

第十條 本規程ハ明治三十三年度分ヨリ施行ス

従前ノ各收入證明規程ハ明治三十二年分限リ廢止ス

(別紙ヲ零ス)

明治三十三年十二月二十日印刷

明治三十三年十二月二十五日發行

著述者

二宮 榮 熊

東京市麻布區霞町五番地

發行人

磯村 政 富

東京市四谷區愛住町二番地

印刷人

磯村 兌 貞

東京市四谷區愛住町二番地

印刷所

惠 愛 堂

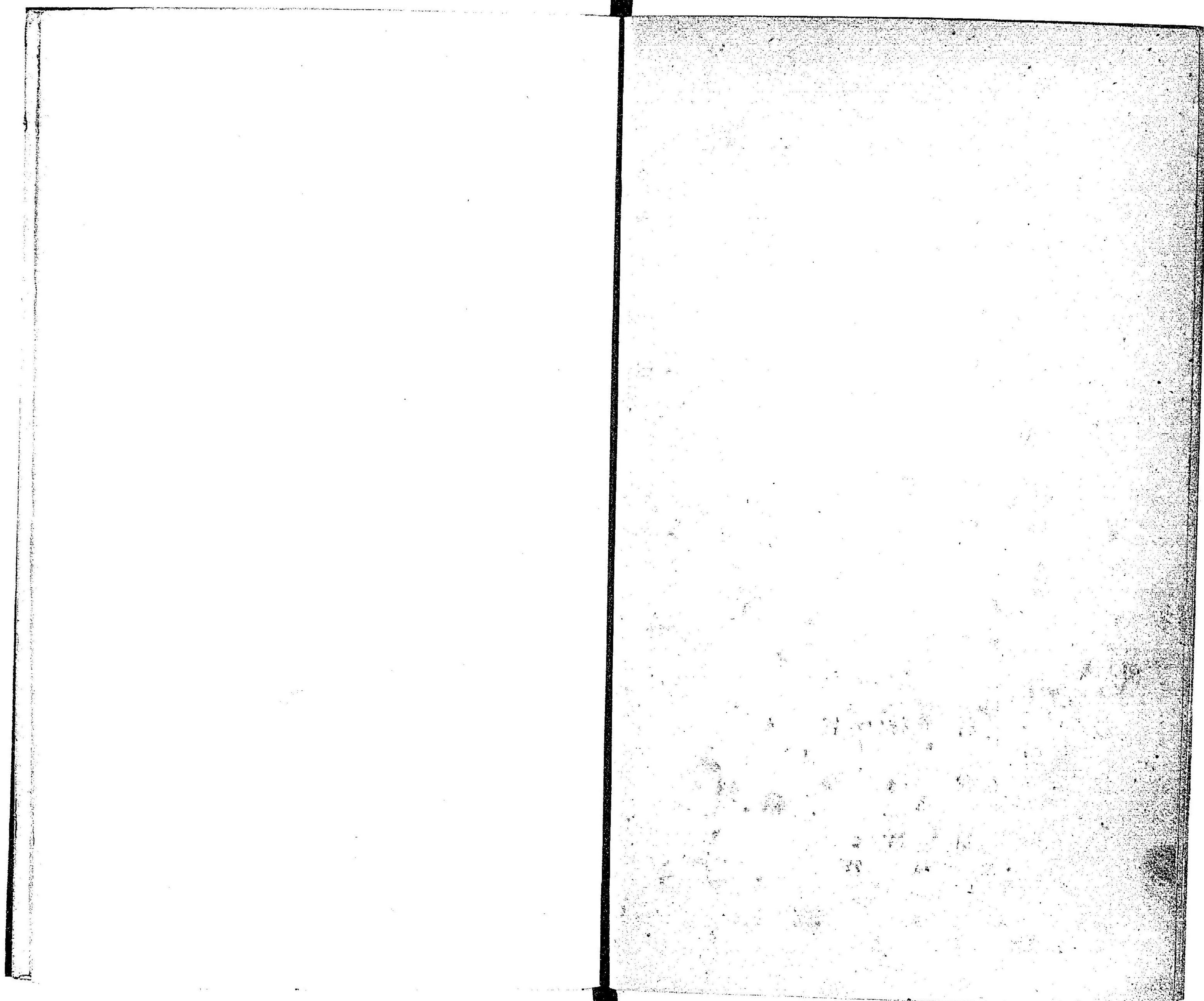
東京市麴町區内幸町一丁目五番地

發行所

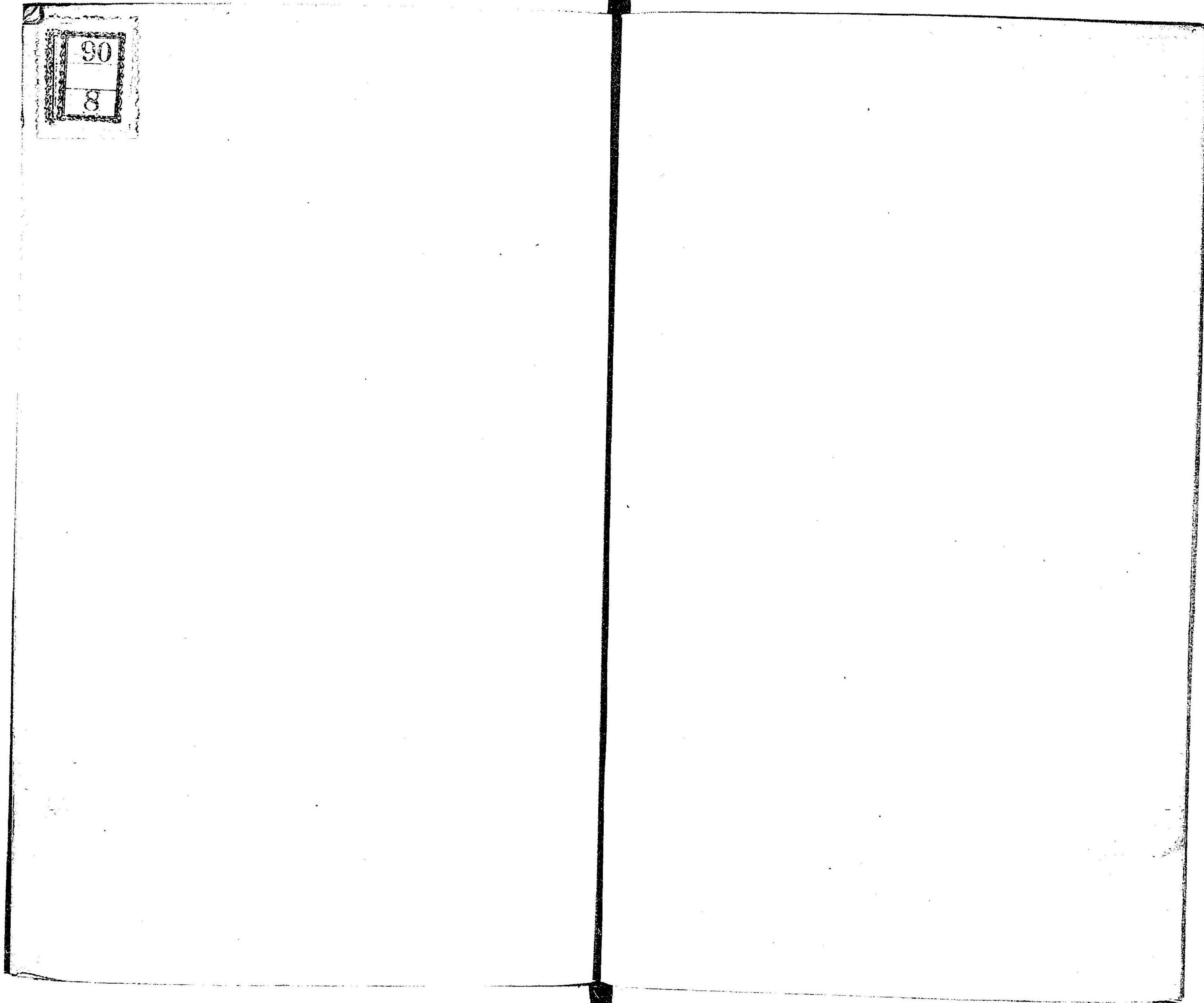
監 獄 協 會

東京市麴町區永樂町一丁目三番地

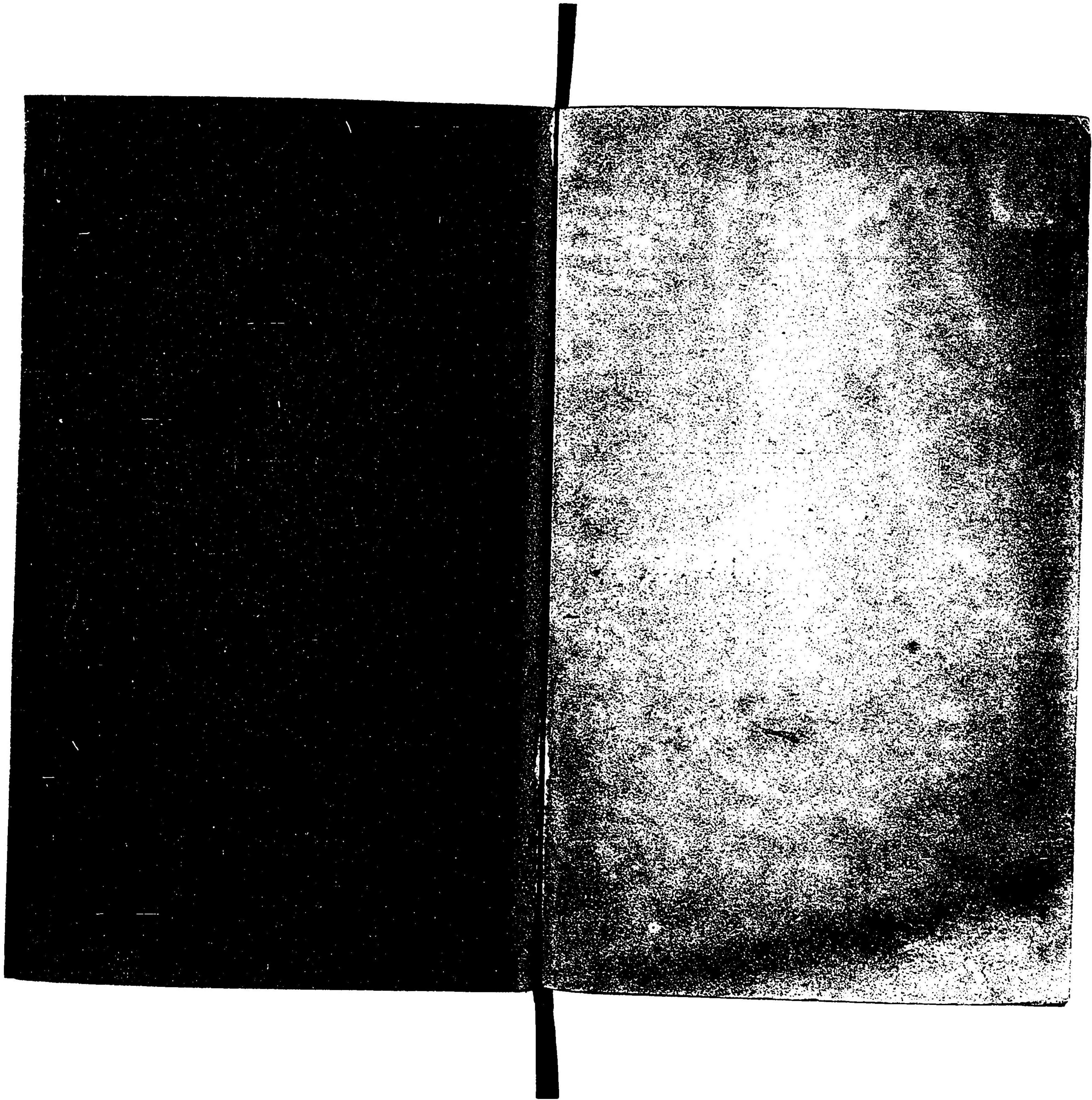








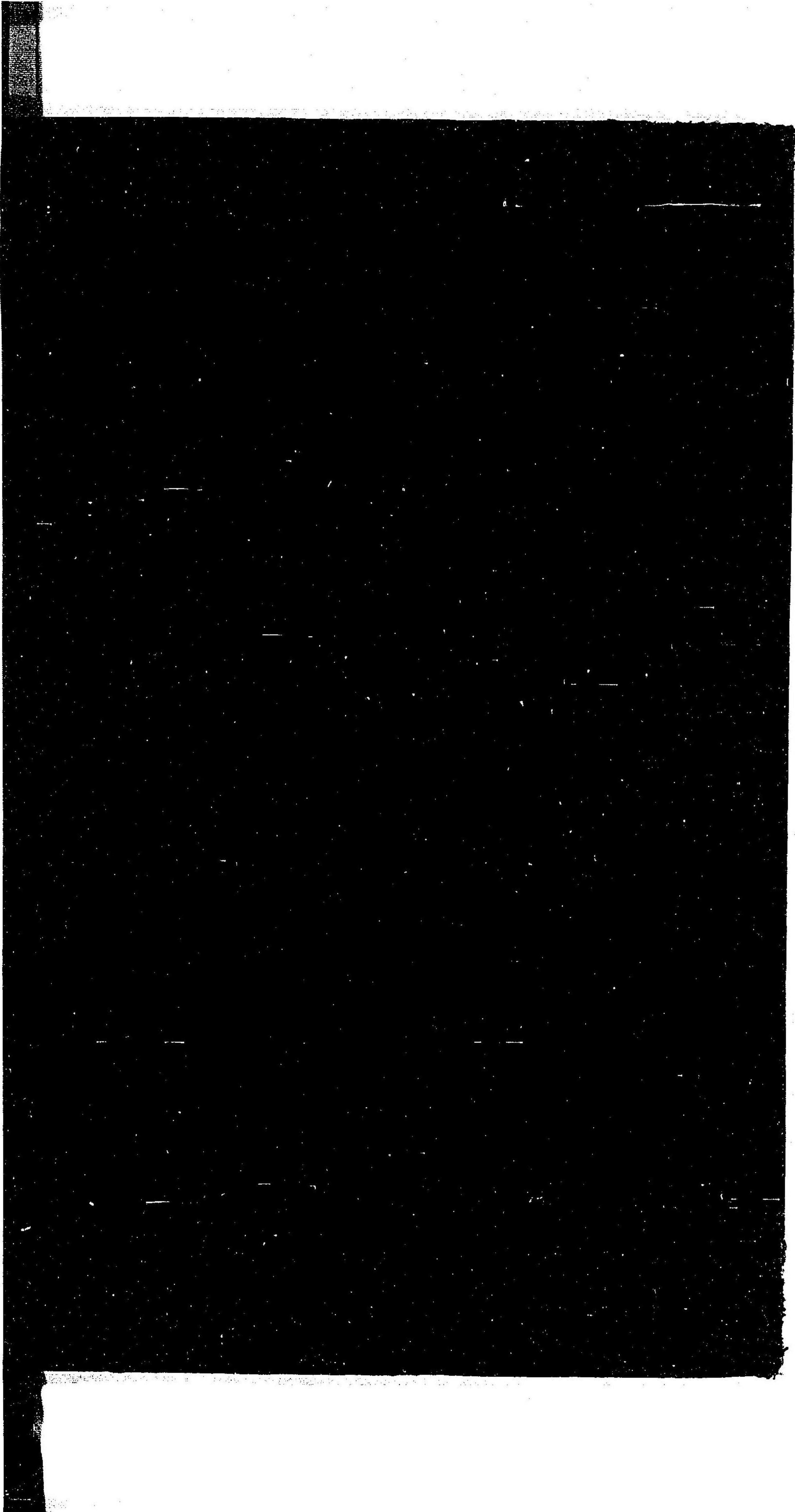






90  
8







90  
8

037249-000-3

90-8

監獄會計処務規程

二宮 栄熊/著

M33

BBT-0057





